

緒言

余ノ軍隊教育順次教令ニ基キ  
育ノ實施方案ヲ作爲シ之ヲ學生士官ニ講  
話シ隨テ之ヲ筆記セリ此書則チ是ナリ  
故ニ此案ハ余カ自ラ教育主任者トシテ採定  
セル所ニシテ其第一期第二期ニ在テハ自ラ  
新兵掛士官ト爲リ中隊長ト爲リ其第三期  
ニ在テハ大隊長ト爲リ以テ各期ノ教育ヲ  
計畫實施セルモノニ外ナラス





學生士官ニ一言ス抑モ余ハ操典要務令ヲ以テ教育ノ方法ヲ説述スルモノニ非ラス寧ロ其結果ヲ掲載セルモノト信ス言ヲ換ユレハ精熟ノ兵卒ハ是レ善ク典令ヲ踐履スルナリ然ラハ則其方法ノ如キハ專ラ教育者其人ノ一心ニ存スト謂フ可シ教育者ハ須ク善ク其方法ヲ案シ善ク其手段ヲ竭シ以テ令典ノ要求ヲ飽カシメサル可ラサルナリ

此書ハ則チ余カ教育方案タルニ過ス讀者之ヲ以テ摸型或ハ鑑式ト爲スト勿レ

明治二十七年二月

陸軍歩兵少佐南部辰丙



# 步兵教育方案目次

第一編 各個及ヒ部隊ノ教育

第一章 新兵各個教練

一般ノ注意	一	頁
新兵ノ區分	二十一	頁
服裝	二十四	頁
不動ノ姿勢	二十五	頁
集合	三十二	頁
轉回	三十六	頁
行進	三十八	頁
敬禮	五十二	頁



銃ノ操法	五十六頁
射撃預行演習	六十二頁
柔軟體操	六十七頁
器械體操	七十頁
野外演習	七十五頁
距離目測	九十四頁
報告及ヒ命令傳達	百頁
號音	百二頁
勤務口授	百三頁
第二章 初年兵第一期間ニ於ル部隊教練 伍乃至全教育班ノ教練	百八頁

小隊教練	百十一頁
第三章 初年兵第一期檢閲ノ例	百十四頁
第四章 第二及ヒ第三年兵第一期間 ノ勤務及ヒ演習	百十九頁
各個教練	百二十一頁
野外演習	百二十二頁
第一期間各週ノ勤務及ヒ演習預定	百五十頁
第二編 中隊以上ノ教練	百六十二頁
第一章 總論	百六十二頁
第二章 中隊教練及ヒ其各週預定	百六十八頁
第二期檢閲	二百七頁



第三章 大隊教練 二百十頁

基本隊形及ヒ其應用 二百十頁

戰鬪展開及ヒ練兵場ニ於テ與フヘキ問題 二百二十頁

彈藥補充ノ演習 二百五十九頁

射擊預行演習 二百六十二頁

體操及ヒ銃劍術 二百六十二頁

勤務口授 二百六十三頁

第三期檢閲 二百六十六頁

第四章 聯隊教練及ヒ聯隊檢閲ノ例 二百六十九頁

第五章 旅團教練及ヒ演習ノ實例 三百二十四頁

步兵教育方案目次終

### 步兵教育方案

#### 第一編 各個及ヒ部隊ノ教育

##### 新兵各個教練

###### 注意

第一 新兵教育ハ冬期間ナルヲ以テ天候其教育ヲ妨害スルコト多シ而シテ之ニ由テ生スル困難ヲ除去スルニハ左ノ條件ニ注意スルヲ要ス

其二 場所 撰定 此期ノ教練ニハ大ナル練兵場ヲ内庭或ハ其近傍ニ在ル一小地ヲ以テ足

レリトス是レ一ニハ寒風ヲ阻キ一ニハ練兵場ノ往復ニ要スル時間ヲ教育ニ使用シ得ルノ利益アレハナリ





其二 時間ノ配合及ヒ利用 日々各種ノ操法及ヒ運動ニ要スル教練時間ノ配合ハ固ヨリ後來ノ日課預定ト其進歩如何ニ由ル者ナリト雖モ假令ハ各個教練ニ在テハ行進及ヒ銃ノ操法ニ要スル時間ヨリモ轉回及ヒ敬禮演習ニ要スル時間ヲ寡カラシメ須ラク其難易ヲ酌量スヘキ者トス

各個教練ニ在テ特ニ主トスヘキ要訣ハ教官及ヒ新兵ヲシテ教練ニ飽ク勿カラシムル爲メ屢々教練課目ヲ變スルニ在リ而シテ一課目凡ソ三十分時トス又タ其教練ノ要ハ次序ヲ逐フテ操法又ハ運動ノ進歩ヲ期スルト同時ニ兵卒ノ全體格ヲ發育セシムル如クセザ

ルヘカラス若シ夫レ柔軟體操ノ良結果ヲ待ツテ初メテ兵卒ノ姿勢ヲ教ユルカ如キハ教育ノ本旨ニアラサルナリ

又タ此ノ如ク屢々教練課目ヲ變スルノミナラス尙ホ且長時間停止ノ動作ノミヲ爲サシムルヲ避クヘシ若シ之ヲ爲サシムルキハ手足凍盛シテ遂ニ動作シ能ハサルニ至ルヘシ故ニ停止ノ動作ニ次テ行進又ハ柔軟體操ノ如キ行動動作ヲ爲サシムル如ク時間ノ配合ニ注意シテ預定表ヲ定ムルヲ要ス夫レ此ノ如ク霎時ニ課目ヲ變スルキハ教官ハ其各教育時間ノ僅少ナルカ爲メ無益ノ解説又ハ動作ヲ止メ勉メテ十有餘名ノ兵



卒ヲ一樣ニ教育シ其進歩ノ均一ヲ慮ルヘシ  
 時間ノ利用トハ教育者絶ヘス部下ヲ教育スルノ念ヲ  
 腦裡ニ存シ且ツ之ヲ實施スルニ在リ其一例ヲ示サン  
 ニ各個教練ノ片教官一名ノ兵卒ヲ前ニ呼出スニ際シ  
 先ツ兵卒ノ答辭ニ注意シ之ヲシテ活潑明亮ナラシメ  
 以テ報告及ヒ命令傳達ニ要スル語次ノ資トシ次ニ列  
 中ヨリ指定ノ地ニ至ル姿勢就中頭ノ位置及ヒ行進法  
 (銃ヲ携フル片ハ銃ノ持方殊ニ銃口ノ高サ)ニ注意シ又  
 タ居常兵卒ニ諸事ヲ命スル片ハ必ス復言セシムルカ  
 如シ

夫レ各教育主任者ハ新兵第一期ノ時日短少ナルヲ訴

フルハ時機ノ利用ヲ知ラサルノ徴ニシテ已レ其教育  
 ニ不熟ナルヲ示ス者ナリ實ニ此期ニ教ユヘキ課目ハ  
 數多ニシテ若シ各課各別ニ之ヲ教育スル片ハ夏期ニ  
 至ルモ尙ホ盡キス假令之ヲ各別ニ教ユルノ時間アリ  
 トシテ之ヲ各別ニ教育スルモ其弊ヤ各種ノ動作相分  
 離シ兵卒亦タ時機ニ應シテ之ヲ活用スルノ精神ナキ  
 ニ至ルヘシ

此時間ノ利用ハ精密ノ注意ト教官ノ堪忍ニ由ラサル  
 ヘカラス假令ハ復言ヲ居常ノ雜事ニ教育スルモ之ヲ  
 聞クモノ偶々某事ニ忙ハシキ片ハ之ヲ聞クヲ欲セサ  
 ルノミナラス時ニ或ハ復言者ヲ叱スルノ甚シキニ至



抑モ教官トハ營ニ典令ヲ教ユルノミニアラヌ部下ニ對シテハ其他ノ諸事ニ在ツテモ己レ教官タルヲ忘ルヘカラス之ヲ細說スレハ練兵場及ヒ野外ハ戰術學ノ講場屯營内ハ内務ヲ教ユヘキノ講場ニシテ此場ニ在ル教官ナレハ終始適切ノ矯正ニ由リ新兵ヲシテ不知ノ間ニ善良ナル軍人タラシムルヲ勉ムヘキナリ

第二 中隊中ノ一將校ハ教育主任タル中隊長ノ方針ニ從ヒ新兵教育ノ指揮及ヒ監視ヲナス之ヲ新兵掛將校ト云フ而シテ此將校ハ中隊中ノ最青年將校タルヲ良トス抑々新兵教育ハ最大ノ智力ト精細ノ注意トヲ以テ各兵

ノ體格及ヒ其性質ヲ洞察シテ各其之ニ應スル教育法ヲ定メサルヘカラス是ヲ以テ此將校ニ在リテハ之ニ由テ軍事必需ノ統御術及部下教育ノ大本ヲ習得スルヲ得ヘシ之ヲ略言セハ新兵ヲ教育セサリシ將校ハ部下兵卒ノ體力ヲ愛惜シ志氣ヲ養成スルニ精細ノ注意ニ乏シキ者トス蓋シ注意ノ粗漏ハ軍紀ヲ壞亂スル最大ノ資源ナリ

第三 新兵第一期ノ教練時日ハ凡ソ十四週トス而シテ每週ノ教育預定ハ中隊長之ヲ新兵掛將校ニ授ケ而シテ此預定ハ其週内ニ於テ施行スヘキ教練ノ項目ノミニシテ新兵掛將校ハ之ニ由テ日課ヲ制定シテ中隊長ノ一閱ニ供フ此日課ハ前日ハ勿論當日ト雖モ部下新兵掛下士



ニ示サス各教練ノ終リニ於テ之ヲ命スルヲ良トス是レ  
 一ハ教練ノ結果ニ由リ一課目ニ多クノ時間ヲ要シ他ノ  
 預定課目ヲ行ヒ難クシテ部下ノ信用ヲ失スルヲ勿ラシ  
 カ爲メ一ハ此命令ノ前後ヲ利用シテ教授方法ノ矯正及  
 ヒ次ノ教練ニ於テ特ニ注意スヘキ諸件ヲ告知スルヲ  
 得セシメンカ爲メナリ左ニ日課預定ノ一例ヲ示スヘシ  
 甲 中隊長ヨリ新兵掛將校ニ與フルモノ

第一週

- 一 服裝、小倉衣服、脚絆ヲ袴上ニ着ス
- 一 姿勢
- 一 一列ニ於ケル側面或ハ橫隊ニ集合

- 一 敬禮 但シ徒手停止間ノモ、及ヒ行進ヨリ爲スヘキモノ、初歩ノ射擊預行演習ヲ架上ノ照準シ及ヒ他人ノ照準ヲ點檢スルニ至ル且ツ立射ノ姿勢(身體ノ姿勢)
- 一 轉回
- 一 行進預行演習 初メハ自然ノ行進ニシテ其行進間ニ一部ノ不正ヲ正ス
- 一 各個ノ整頓
- 一 器械體操 但シ橫木、梯、繩飛目シテ新兵體格ノ欲點ヲ矯正スルヲ目的ニシテ單ニ懸垂ノ動作ニ止マリ其他ノ動作ヲ爲スナク嚴禁ス
- 一 柔軟體操 但シ此週ノ初歩ヲ行フ

乙 新兵掛將校自ラ製スヘキモノ

第一週 月曜日



午

自八時三十分  
至八時五十分

姿勢及一列側面及橫隊

ニ集合

八時五十分

停止間敬禮ノ預行演習

九時二十分

柔軟體操

休憩

十時三十分

射擊預行演習

十一時

敬禮

前

午

自二時三十分  
至二時四十五分

器械體操及柔軟體操

交互ニ橫木、梯、繩飛、

三時四十五分

射擊預行演習(午前ニ

四時十五分

同シ)

四時三十分

集合及ヒ敬禮ノ爲メニ

スル各種ノ預行演習

後

火曜日

八時三十分

行進間敬禮ノ預行演習

九時

射擊預行演習

二時三十分

器械及柔軟體操(月曜日)

三時四十五分

轉回

休憩

十時十分

柔軟體操

十時三十分

左向

四時十五分

射擊預行演習

水曜日

八時三十分

右向

八時五十分

射擊預行演習

九時二十分

集合(前後ノ重疊)

九時四十分

柔軟體操

十時十分

行進預行演習

木曜日

八時三十分

右向前へ進メ

二時三十分

器械體操及柔軟體操



九時 射擊預行演習  
 九時四十分  
 十時 行進預行演習  
 十時四十分  
 十一時 敬禮演習

三時四十五分 射擊預行演習  
 四時十五分  
 四時三十分 敬禮演習

金曜日

八時三十分 姿勢及整頓  
 九時 行進預行演習  
 九時四十分  
 九時四十分 射擊預行演習  
 十時二十分  
 十時四十分 敬禮演習  
 十一時

二時三十分 器械及柔軟體操(銃ニ  
 三時四十五分 劍ヲ附ス)  
 三時四十五分 敬禮演習  
 四時  
 四時三十分 預行演習

土曜日

八時三十分 各個ノ整頓  
 八時五十分  
 九時四十分 行進預行演習

十時十分 敬禮演習  
 十時三十分  
 十一時 射擊預行演習

(備考) 一回教授セシコトハ其後施行スルモ更ニ表面ニ示スナシ  
 教授ノ時間長キハ講評及次ノ科目ヲ示スコトヲ含有ス

日々教練ノ時間ハ講授ノ時間ヲ除キ四時乃至四時半間  
 ヲ以テ充分ナリトス但シ此時間中ニハ總テ實施シ得ヘ  
 キ諸勤務諸演習ヲ教ユヘキナリ而シテ午前ハ第八時三  
 十分ヨリ始メ第十時三十分乃至第十一時ニ至リ午後ハ  
 第一時ヨリ第三時ニ至ルヲ適當トス又講授ハ午前第七  
 時ヨリ第八時ノ間ニ於テスヘキナリ

第四 中隊長以下此教育ニ係ル諸官ノ服裝姿勢及ヒ其



言語殊ニ嚴正ナラサルハカラス然レモ未タ軍紀ニ慣レサル新兵入營ノ當初ニ在テハ兵舎ノ内外ヲ問ハス單簡明瞭ノ活音ハ此兵ノ爲メニハ叱責ノ如ク聞ヘ勇壯威嚴ノ姿勢ハ苛酷ノ處置ヲ爲サル、カト疑ヒ之ヲ嫌忌スルニ至ル故ニ中隊長及ヒ當該諸官ハ殊ニ此點ニ注意シ勉メテ温和ヲ以テ之ニ接シ懇篤ニ教育セサルヘカラス(操典第一部第一章第一)其他注意スヘキ件々左ノ如シ

一 中隊長ノ練兵場ニ出ルノ度數ハ固ヨリ新兵掛將校ノ熟否ニ由ルト雖モ概テ最初五週日ノ間ハ每週一回若クハ二回ニシテ其週内ニ於テ施行セシ教練ノ一ヲ檢閲シ其矯正過敢ナルヘカラス第六週ノ始メヨリ

ハ每週二回若クハ三回ニシテ矯正稍嚴ナルヘク遂ニ第一期檢閲前凡ソ三四週間ハ日々此所ニ出場シ其矯正極メテ嚴ナルヲ要ス之ヲ略言セハ中隊長ノ練兵場ニ臨ミ及ヒ其矯正ハ教育其歩ヲ進ムルニ從ヒ漸ク繁且嚴ナルヲ要スル者トス

二 新兵掛將校ハ諸教官教授ノ方法ヲ監視シ其進歩ノ均一ヲ慮リ且ツ教官己レノ教育班ヲ善良ナラシムルノ熱心ヨリ生スル間稽古ヲ禁シ及ヒ痴鈍者ニ對シ其教授極メテ叮嚀ナラシムルヲ勉ムヘシ

附言 間稽古ハ新兵掛將校中隊長ノ許可ヲ以テ三十分乃至一時間教練ノ不進歩ナル者ノミニ施スヘ



シト雖 中隊長ノ之ヲ許スハ第十週以前ニ於テス  
ヘカラス

三 教官下士ハ其班内各兵ノ性質及ヒ天然ノ缺點ヲ  
熟知シ之ニ新兵各個ニ要スル教育手段ヲ熟考シ諸種  
ノ方法ヲ利用シ其兵ヲシテ缺點ナキ一軍人タラシム  
其手段トハ何ソ曰ク假令ハ一新兵ニシテ行進ノ際脚  
強硬ナル者アルキハ操典ニ於テ之ヲ許サ、ルモ唯一  
時ノ方便トシテ行進ノ際殊更膝ヲ屈セシムルカ如シ  
教官ハ下級指揮ニ最モ缺クヘカラサル信義ト愛情ト  
ヲ以テ熱心ニ教育ニ従事シ新兵ヲシテ其精神ノ有  
ル所ヲ知ラシメ決シテ其動作ヲ冷淡ニシ爲メニ猜疑

ノ念ヲ生セシムヘカラス粗暴ノ取扱ヲナス者ハ善良  
有力ノ下士ニアラス蓋シ粗暴ノ取扱ハ獨リ罵詈毆打  
ハミヲ云フニアラス忍耐ノ缺乏モ亦多少ノ粗暴ナリ  
故ニ教育ノ當初ハ當該將校ハ殊ニ此點ニ注意シ屢々  
教官ニ諭スニ誤リヲ常ニ新兵ノ愚鈍ニ皈スルノ念ヲ  
起スヲナク一ニ其之ヲ教育スルノ手段尙足ラサルカ  
ヲ反省セシムルカ如クスヘシ之カ爲メ中隊長及ヒ新  
兵掛將校ハ若シ教官下士ニ對シ各其班内ニ在ル不熟  
ハ兵ヲ以テ其教育惡シトシ其擔保ノ責ヲ負ハシメ或  
ハ之ヲ呵責スルカ如キトアルキハ此下士熱心ヲ缺ク  
ニ至リ最モ有力ノ下士ト雖 遂ニ惰氣ヲ生スル者ト



ス故ニ若シ教官ヲシテ好ンテ事ニ従事セシメント欲  
 セハ獎勵ヲ以テシ各教官ヲシテ各其部下ニ對シ己レ  
 至當ナル教導者タルハ感覺ヲ起サシムルハ必要ナリ  
 若シ教示スヘキヲ或ハ譴責スヘキヲアル片ハ決シテ  
 之ヲ新兵ノ目前ニ於テスヘカラス又常ニ穩和ナル言  
 詞ヲ用ユヘシ

四 助教(通常上等兵)ハ常ニ教官ノ教授セシ諸件ヲ復  
 習矯正セシムルニ止マリ決シテ新教科ヲ授クヘキ者  
 ニアラス是レ之ヲ許ス片ハ一方ニハ新兵掛將校ノ預  
 定ヲ紊タシ却テ教練ノ進歩ヲ妨ケ一方ニハ讒謗及ヒ  
 歐打ノ弊アルト上等兵ニ最モ多ケレハナリ何トナレ

ハ上等兵ハ概シテ新兵ヲシテ理解セシムルノ能力ニ  
 乏シク不充分ナル説明ニ由テ新兵之ヲ了解セサル片  
 ハ忽チ其耐忍ヲ失フカ故ナリ

凡テ教官ハ教練ノ際勉メテ遠ク隔リ自ラ其摸範ヲ示シ  
 或ハ助教ヲシテ之ヲナサシメ同時ニ單簡明瞭ニ説明ヲ  
 ナスヲ要ス新兵ニ對スル動作前ニ於ケル説明ハ假ヒ懇  
 厚適切ナルモ其動作ニ際シテ復タ多少ノ説明アラサル  
 ヘカラス蓋シ新兵ニシテ最初ヨリ熱心以テ其新職役ニ  
 従事スルヲ望ムハ容易ナラス故ニ假ヒ不熱心ノ觀アル  
 モ勉メテ之ヲ懲罰ノ範圍ニ入ルルハ避ケサル可カラス  
 抑々教官及ヒ助教ニシテ耐忍ヲ失ヒ遂ニ粗暴ノ取扱ヲ



ナスニ至ルハ決シテ新兵ノ罪ニアラス之ヲ教育スルノ方法惡シキノ致ス所ナリ其法ノ惡シキトハ同時ニ數多ノ要求ヲナシ之ヲシテ同時ニ完全無缺ノ兵タラシムルヲニシテ能力ナキ新兵之ヲ記憶スルノ難キヨリ事々物々疑ヒヲ生シ其動作不活潑ナルニ至ルモノトス故ニ教官ハ能ク其時機ヲ利用シ逐次ニ其理ヲ了解セシムルヲ以テ最良ノ手段トナス假ヘハ擔銃ヲ教ユルニ際シ第一回ニハ單ニ肩上ニアル銃ノ位置第二回ニハ第一舉動ト體ノ保持第三回ニハ第二舉動ト頭ノ位置第四回ニハ第三舉動ト體ノ保持ニ注意スルニ在リ又教官ハ常ニ新兵ヲシテ下ノ言ヲ服膺セシムルヲ勉ムヘキナリ曰ク上官

ハ教育ニ懇切ニシテ軍紀ニ嚴ナルモノナリト

### 新兵ノ區分

第五 毎年歩兵一中隊ニ編入スヘキ新兵ノ數ハ四十乃至五十名トス而シテ之カ教育ニ任スル人員ハ士官一名(新兵掛)下士若クハ上等兵四名(教官)及ヒ上等兵若クハ撰拔セル古兵四名(助教)トス而シテ中隊中最新參ノ將校ヲ以テ任スル片ハ已ニ上ニ述フルカ如ク此將校ハ高等指揮官ニ缺クヘカラサル部下各兵ノ性質及ヒ技能ヲ熟知シ從テ其教育ニ要スル思考力ヲ增加スルノ利益アルモノトス若シ然ラスシテ年々某將校ニ新兵掛ヲ命スル片ハ或ハ其新兵ハ第一期末ノ結果善良ナルモ第一期檢閱



後ニ在テハ又々教育ニ馴レサル他ノ將校ノ監視號令ヲ受ケサルヲ得サルヨリ遂ニ其技倆ノ價值ヲ損スルニ至ル故ニ曰ク新兵掛ヲナサ、ル將校ハ有力ノ者ニアラスト

又々教官下士中ニハ少クモ一名ノ青年下士新兵教育ニ馴レサル者ヲ混シ中隊ノ全下士ヲシテ未タ新兵ヲ教育セサルノ下士ナカヲシムルヲ勉ムヘキナリ抑モ下士ハ内外諸勤務及ヒ諸演習ニ在テ能ク各兵ノ性質躬行及ヒ其缺點ヲ熟知シテ統御及ヒ教育ニ誤リナキヲ要ス而シテ已ニ教育ヲ受ケタル兵卒ニ接シ之ヲ得ルハ實ニ困難ナルノミナラス其得ル所蓋シ概況ニシテ下士ニ必要ナ

ル精細ノ注意ヲ得サルナリ是レ青年下士ヲ新兵掛中ニ加フルヲ要スル所以ナリ又々此下士ノ擔任スル教育班ノ教練他ノ班ニ劣ルノ弊ハ當該將校ノ鞭撻ト其助教ノ撰定如何ニ由テ之ヲ補フヲ得ヘシ

此教育班ハ若シ之ヲ爲シ得ルハ兼テ新兵ノ給養班トナシ新兵掛下士及ヒ上等兵ヲシテ之ト起居ヲ同フセシムルヲ良トス

此四班ノ區分ハ小隊編成(步兵操典第一部第六十六)ニ基キ更ニ之ヲ二分シ其各部ノ前列及ヒ後列ヲ一個ノ教育班トナスニ在リ然ルハ第一期教育間即チ小隊教練ニ至ル迄絶ヘテ各兵ノ順次ヲ變スルヲ勿ケレハナリ



## 服裝

第六 新兵ニ被服ヲ與ヘ之ヲ其体格ニ適合セシムルニハ最大ノ注意ヲ以テセサルヘカラス是レ此適合其宜シキヲ得ルハ雷ニ新兵ノ外形ニ止ルノミナラス其動作ニ關スルヲ極メテ大ナレハナリ且ツ當初充分ノ注意ヲ以テ之ヲナスルハ其結果ハ數多ノ時間ト各種不快ノ感覺ヲ減スルモノトス故ニ中隊長ハ爲シ得ル限り其供給ニ注意シ以テ新兵ノ歡心ヲ需メサルヘカラス之カ爲メニ要スル被服裝具ノ修理ハ後ニ至リ之ヲ述フヘシ

日々教練ノ前ニ於テ教官ハ細密ニ各兵ノ服裝ヲ検査シ當該將校及ヒ中隊長ニ對シ己レ其責ニ任スヘキナリ又

々新兵掛將校ハ終始新兵ノ服裝ニ注意スルノミナラス新兵稍々整頓ヲナシ得ルノ期(凡ソ第七週)ニ至レハ日々一回演習前或ハ其後ニ於テ整列検査ヲ行フヘシ(服裝検査ノ條ヲ見ルヘシ)

## 不動ノ姿勢

第七 兵卒ヲシテ正シキ不動ノ姿勢ヲ取ラシムルハ實ニ全教練ノ基礎ナリ故ニ最モ注意シテ各個ニ之ヲ教ユルヲ要ス而シテ最初ハ號令ヲ用ユルヲナシ

此姿勢ハ兩足ノ位置ヲ以テ基礎トス故ニ操典ニ於テ之ヲ説明スルヲ最モ綿密ナリ其教育ノ初メハ新兵ヲシテ兩足ノ位置ヲ見セ適當ニ之ヲ改良セシメ斯ノ如クシテ



之ニ無益ノ勞苦ヲ與フルコトナク漸次ニ教練ノ進步ヲ慮ルヘキナリ

姿勢ノ善良ヲ得ンニハ左ノ諸件ニ注意スヘシ

- 一 兩足尖殊ニ大指ニ稍々力ヲ容ル、
- 二 膝節ヲ後方ニ引キテ其背部ノ筋ヲ張ルヘシト雖  
     凡強固ナラシムヘカラス是レ膝部凝固ナルルハ  
     上体自然ニ動搖スルモノナレハナリ
- 三 胸及ヒ上体ハ前方ニ傾クヘシト雖凡殊更ニ臀ヲ  
     後方ニ出スヲ許サス操典ニ於テ要求スル上体ノ  
     傾キハ第一第二項ノ要領ヲ確守スレハ自然ニ成  
     ルヘシ蓋シ上体ヲ正シク腰ノ上ニ落チ附ケアル

四

ヤ否ヲ檢スルカ爲メ屢々踵ヲ上ケシムルヲ要ス  
 兩臂ハ柔カク自然ニ垂レ決シテ硬直ナルヘカラ  
 ス兩臂自然ノ垂下ハ少シク外側ニ彎曲シ体ヨリ  
 稍々離隔スルモノトス若シ硬直ニシテ体ニ接ス  
 ルルハ銃ノ操法ニ際シテ手ノ動作、体ニ影響スル  
 モノトス之カ爲メ教官ハ屢々手ヲ新兵兩肘ノ内  
 部ニ接シ之ヲ動搖シテ其硬軟ヲ試ムヘシ  
 又々強ク兩肩ヲ後方ニ引クルハ臀部自カラ後方  
 ニ出テ兩臂凝固トナリテ兩肘後方ニ向フ故ニ兩  
 肩ヲ後方ニ引クハ兩臂ノ凝固ナラサルヲ度トス  
 但シ最初ノ演習ニ於テハ臂ノ動作ニ注意セサル



ヲ要ス

五 頭ハ最初ノ演習ニ在テハ少シク高ク保タシムヘシ是レ我國人ハ下方ヲ視ルノ通弊アルヲ以テナリ而シテ其正シキ高サハ首ノ後部常ニ上衣ノ襟ニ接觸スルニ在リ各個教練ニ在テ停止間ハ先方ニ立ツ教官ノ帽ノ上縁、行進間ハ前進者ノ帽ノ上縁ヲ視ルニ慣レシムヘシ

新兵此演習ヲ稍々確實ニナシ得ルニ至レハ號令ヲ用ヒテ姿勢ヲ執ラシムルモ自然ニシテ凝固ナラサルニ注意シ數回ノ演習ト教官ノ耐忍トヲ以テ之ヲ完成スルヲ勉ムヘキナリ

第八 執銃ノ姿勢ハ立銃、擔銃及ヒ捧銃ノ順序ヲ以テシ最初ハ銃ノ操法ニ號令ヲ用ユルヲナク新兵ニ命シテ銃ヲ肩ノ上ニ置キ或ハ之ヲ体ノ中央ニ持來ラシム此時注意スヘキハ勉メテ体ヲ動カサシメサルニ在リ而シテ其各姿勢ニ於ケル銃ノ保持ニ注意スルヲ以テ足レリトス

第九 新兵整頓ノ要領ヲ知ルニ至レハ整列検査(閱兵)ヲ爲シテ全新兵不動ノ姿勢均一ナルヤ否ヲ檢ス蓋シ各個教練ニ於テ各新兵ノ姿勢悉ク相同シキノ觀アルモ之ヲ並列セハ多少ノ差異ヲ生スヘキヲ以テ凡ソ第七週ノ始メヨリハ各個ニ關スル姿勢ノ外、列兵ノ姿勢ヲ見ルヲ肝要ナリ



此整列検査ハ十歩ノ距離ヲ取り或ハ定距離ニ於ケル前後兩列ニ於テ第八ニ示ス執銃ノ順次ヲ以テ之ヲ爲ス而シテ前後兩列トナスハ後列兵ノ正シク前兵列ニ重ナルヲテ慣レシメンカ爲メトス但シ此整列ノ方法ハ第一期檢閲ノ條ニ示スヘシ

第十 各週ノ預定左ノ如シ

- 第一週 徒手不動ノ姿勢但シ最初ハ臂ニ注意セ
- 第二週 同上但シ臂ニ注意セ
- 第三週 立銃及ヒ擔銃ノ姿勢但シ操法ニ關
- 第四週 同上ノ外捧銃ノ姿勢但シ此週ノ操法ニ於

第五週 同上

第六週 同上

第七週 同上ノ外立銃ニ於ケル整列検査(開列)

第八週 同上ノ外擔銃及ヒ捧銃ニ於ケル整列検査

(開列)

第九週 第七第八週ノ姿勢(開列)

第十週 同上及ヒ此整列ニ於ケル銃ノ操法(開列)

第十一週 同上定距離ニ於ケル前後兩列ノ整列検査

第十二週

第十三週 開列及ヒ閉列ニ於ケル整列検査

第十四週



## 集合

第十一 此演習ハ新兵教育ノ初メヨリ之ヲナシ新兵ヲシテ迅速且ツ撞突スルヲナク正シク集合スルヲ慣熟セシムヘシ是レ此目的ハ混雜ナク前後及ヒ左右ノ整頓ヲ速カニ爲サシムルニ在リ

最初ノ演習ニ在リテハ各教育課目ヲ變スル毎ニ此集合ヲ行ヒ教育其度ヲ進ムルニ至レハ漸次ニ之ヲ減少スヘシ而シテ集合ヲ教ユルニ際シ注意スヘキ要件左ノ如シ

- 一 横隊或ハ側面ニ集合スルハ其集合ノ際甚シク基準兵(右或ハ左)若クハ先頭ノ方ニ詰メサルニ注意スヘシ故ニ各兵ノ停止ハ少シク離レタル地

- 二 於テシ次ニ徐々基準兵ノ方ニ近接スルヲ要ス集合ハ常ニ駈歩ヲ以テシ教官ハ此際頭ヲ高ク持タシメ又タ銃ヲ携ルハ銃口ノ下ヲサルニ注意スヘシ

- 三 最初ノ教育ニハ強弁テ前後左右ノ整頓ヲ需ムヘカラス之カ爲メ教官ハ教育手段トシテ左ノ方法ヲ用ユルヲ良トス但シ兵卒稍々集合ニ熟スルニ至レハ之ヲ禁スヘキ者トス

一步ノ間隔ヲ以テ右或ハ左へ一列横隊ニ集合スルハ各兵ハ右或ハ左手ヲ伸シテ隣兵ノ肩ニ當ツ



二列ノ横隊ニ集合スルハ第一伍ノ後列兵ノ  
ミ前列兵ノ肩ニ兩手ヲ當ツ

四 新兵稍々集合ニ熟スルハ先ツ前後ノ重疊ヲ精  
密ニ修正シ次ニ左右ノ整頓ニ及フヘシ

各種ノ集合ニ要スル號令ハ固ヨリ一定ノモノニアラサ  
ルモ其一例ヲ擧クレハ

- 一 (一)(二)列横隊ニ集レ
- 一 (一)(二)(四)列側面ニ集レ
- 一 集レ

第十二 各週ノ預定左ノ如シ

第一週 徒手ニテ一列ノ横隊(一步或ハ定間隔ニ集合

但シ左右ノ整頓  
ヲ需ムヘカラス

第二週 徒手ニテ(一)(二)列ノ横隊(定間隔)或ハ側面ニ集

合ノ但シ前後ノ重疊  
ノミニ注意ス

第三週 執銃ニテ(一)(二)列横隊(二列ナルハ十歩ノ距

離)或ハ側面ニ集合(但シ主トシテ前後ノ重  
疊及ヒ立銃ニ注意ス)

第四週 執銃ニテ定距離ノ二列横隊ニ集合(但シ左右

注意  
ス

第五週 同上

第六週 四列側面縦隊ニ集合(但シ前後ノ重

第七週乃至第九週 第三週已下ノ復習

第十週 小隊ニ集合



轉回

第十三 最初此演習ヲ行フニ際シ上体ノ動搖ヲ避クルニハ新兵ヲシテ兩手ヲ腰ニ方テ或ハ之ヲ背後ニ堅ク交叉セシムルヲ以テ最モ良トス元來我國人ノ体格ハ胸部及ヒ腹部共ニ前方ニ曲リ且ツ胸部挾キヲ以テ第二法ヲ用ユル片ハ兼テ其体格ノ瑕失ヲ矯正スヘシ又轉回ニハ膝節ノ屈セサル<sub>1</sub>及ヒ飛蹈セサル<sub>1</sub>ニ注意スヘシ此二弊害ノ由テ生スルハ不動ノ姿勢ニ在ル片兩脚凝固ナルノ致ス所ナリ故ニ最初ノ演習ニ在テ脚ノ柔軟体操ヲ併セ行フ<sub>1</sub>極メテ必要ナリ

第十四 各週ノ預定左ノ如シ

第一週 徒手ニテ各個ニ右向、左向、半右(左)向及ヒ右轉

回兩手ヲ腰ニ方テ或ハ但シ最初ハ號令ヲ用ヒス各節ヲ分解シテ之ヲ教ユ

第二週 同上ノ外此週ノ終リニ於テハ二名宛同時ニ之ヲ行フ(兩手ヲ腰ニ方ツ)但シ以下號令ヲ以テス

第三週 同上ノ外二名宛終リニ半教育班同時ニ之ヲ行フ但シ兩手ヲ腰ニ方テ且伍ヲ重複スルヲナシ又々續テ行進間ノ右(左)向ヲ爲サル

第四週 同上ノ外(第三週ニ同シ)及ヒ二名宛兩手ヲ腰ニ方テスシテ行フ伍ノ重複執銃ニ於ケル各個二名及ヒ半教育班ノ轉回



但シ最初ハ一步ノ間隔  
次ニ定間隔ヲ以テス

第五 同上

第六週 同上 但シ間隔ヲ重複テ加ヘ

第七週 同上 但シ初ハ二伍ヲ重復セテ之ヲ行フ又

第八週 同上 但シ行ヒ又タ續テ全半教育班ヲ以テ

第九週 同上

第十週 二教育班若クハ全新兵ヲ合シテ行フ轉回及

ヒ行進間ノ右轉回右(左)向前ヘ但シ伍ヲ  
重複ス

第十一乃至第十四週 同上

### 行進

第十四 操典ニ記載セル早歩ノ行進ハ第二週ノ終リニ

於テ始ムヘキモノトス行進ハ自然ノ步調ヨリ漸次少許  
ノ矯正ニ由リテ遂ニ操典ノ原則ニ導ク片ハ終始其要領  
ヲ忘ル、ヲナキニ至ルヘシ又軍紀ノ維持ハ漸次其教育  
嚴正ナレハ足ル

操典ニ記載スル一分時ニ百十五歩ノ調子ヲ取ラシムル  
ニハ最初ハ步調ヲ緩ナラシムルヲ良トス此緩徐ナル步  
調ハ定規ノ步調ニ要スル預行演習ニシテ之ニ由テ新兵  
ハ體ノ重ミヲ踏ミ着タル足ニ托シ、膝節ヲ伸シ、足尖ヲ下  
方ニシ及ヒ步幅ヲ伸長スルヲ會得スルモノトス  
世人或ハ曰ク行進ハ如何ニシテ可ナルヤ此教育ニハ單  
一ノ方法ナキヤト是レ一途ニ硬直ニシテ更ニ軍事ノ志



操ナキ兵卒ヲシテ操典ノ原則ニ適合セシメントスルニ在リテ他ヲ顧ミサルノ説トス抑々新兵ニ論者ノ如キ教育ヲナスハ管ニ之ヲシテ苦慮セシムルノミナラス無益ノ時間ヲ費スヲ又タ極メテ大ナリ蓋シ行進ノ預行演習ハ柔軟體操ニシテ就中停止間ニ於ケル足尖ノ旋回脚ヲ前方後方及ヒ側方ニ出シ膝ヲ屈シ及ト之ヲ伸スヲ以テ其効顯著シキモノナリ而シテ日々ノ演習ニハ必ス之ヲ施シ且ツ如何ナル場合ニ於テモ行進ノ要領ヲ紊サ、ルカ爲メ屢々不齊地ニ於テ各個ノ行進ヲナサシムルヲ要ス

已ニ述フルカ如ク足及ヒ脚ノ柔軟體操充分ナル片ハ新

兵ハ短少ノ時日ニシテ苦ナク行進シ得ルニ至ルヘシ是ヲ以テ此教育ノ始メハ其行進ヲ全ク自然ニ委テ決シテ之カ爲メ新兵ヲ牽束スルナク常ニ能ク行進シ得ル上等兵又ハ古兵ヲ先頭ニ進マシメ之ヲシテ其模範ヲ示サシムルヲ良トス

第十五 行進ヲ教ユルニ要スル諸件左ノ如シ

- 一 頭ヲ高ク保タシムルヲ之カ爲メ前方ニ進ム兵ノ帽ノ上縁ニ注視セシムルヲ要ス
- 一 眞直ニ行進セシムルヲ
- 一 勉メテ大ナル步度ヲ取ラシムルヲ但シ操典ニ記載スル一步ノ長サ七十五珊知米突ハ步度ノ平均



數ト見做スヲ得ヘシ故ニ一步ノ長サ之ヨリ小ナルヲ許サス

一 脚ヲ高ク上クルハ操典ニ於テ許サ、ル所ナリ若シ之ヲ爲スルハ行進ノ目的タル體力ヲ愛シテ長ク行進スルヲ難シ又之ニ由テ足尖ヲ下方ニ曲ケ及ヒ上體ヲ前ニ傾クルヲ能ハス且ツ足ヲ踏ミ着クルノ際ハ歩幅ヲ減縮シ平ニ地上ニ踏ミ着クルヲ得サルノ弊害アリ

一 足尖ヲ外方ニ開クノ度ハ不動ノ姿勢ニアル足尖ノ度ヲ維持スルヲ

一 膝節ハ常ニ柔カニ之ヲ保チ足ヲ地ニ踏ミ着ケタ

ルル膝節ヲ伸シ之ヲ後方ニ引キ張ルヲ要ス

一 足ヲ平ラニ地上ニ踏ミ着ケ決シテ爪先ヨリ地ニ着クヘカラス若シ爪先ヨリ足ヲ踏ミ着ケ且ツ前方ニ踏ミ出スルハ之ヲ踏ミ着クルノ際一度膝節前方ニ出テ次ニ後方ニ引クニ至ル故ニ前ニ出シタル足ヲ前方ニ踏ミ出スヲナクシテ其儘地上ニ置キ踏ミ着ケタル際歩幅ヲ減スルノ害ハ同時ニ後ナル足ノ踵ヲ舉ケテ之ヲ補フヲ得ヘシ(操典第一部第七)

一 兩手ヲ前方(帶革ノ部)背後(腰部)ニ交叉シ或ハ之ヲ腰骨ニ當テ上體ノ動搖ヲ防キ體格ノ瑕失ヲ矯正



## スルヲ要ス

一 新兵行進間ノ姿勢稍々成ルニ至レハ右手ヲ直角ニ曲ケテ前方ニ出シ左手ヲ背後ニ廻シ或ハ之ヲ自然ニ振動セシム是レ執銃行進ノ預行ナレハナリ

第十六 執銃ノ演習ハ第二週ノ終リニ於テ既ニ之ヲ始メシムルモ執銃ノ行進ハ凡ソ第五週ヨリ始ムヘキナリ是レ擔銃ニテ行進スルキハ復ヒ各兵ノ行進困難トナレハナリ是ヲ以テ爾後各兵能ク擔銃ニ熟スルニ至ル迄ハ其行進ハ徒手ト執銃トヲ交換シテ教ユルヲ最モ良トス又新兵ヲシテ行進ハ競フテ善良ノ結果ヲ得且ツ極メテ

嚴正ノ步調ヲ取ラシムルノ念ヲ提起セシムヘシ然レモ行進ノ目的ハ體力ヲ愛惜シテ長時間ニ堪ユルニ在ルヲ以テ之カ爲メニ教官ハ屢々「輕ク行進スヘシ」ト呼フヘシ第十七 行進ノ際新兵ヲ前後ニ重疊セル(一)(二)(四)列ノ側面縱隊ヨリ各兵(各伍)ニ若干距離速歩ハ六步駐歩ハ十步ヲ取ラシメ各兵ハ眞直ニ行進スルヲニ熟セシムル者トス而シテ最初ハ正シク此距離ヲ保持セシムルヲ要セスト雖モ各兵行進ニ慣ルニ至レハ正シク之ヲ保タシムルニ注意スヘシ是レ此距離ノ保持ハ不知ノ間ニ步幅ヲ一齊ナラシムルノ手段ナレハナリ又若シ一兵ニシテ其距離ヲ失フ者アルキハ其兵又ハ次ニ進ムモノヲシテ步



調ヲ伸サシメ決シテ之ヲ縮メシムルヲ勿レ  
 此距離ヲ以テ行進シ來ル兵ヲ矯正スルハ極メテ困難ナ  
 ルヲニシテ教官ハ第四項ノ三ニ示ス注意ノ外行進線ノ  
 一側ニ停止シ其線中ノ一點ニ着目シ兵卒逐次ニ此點ニ  
 進ミ來ル兵之ヲ矯正シ既ニ之ヲ通過セシモノニ着目セ  
 サルヲ要ス

第十八 停止ノ際後ナル足ヲ踏ミ着タル足ノ側ラニ引  
 付クル兵膝節ヲ屈シ或ハ上體ヲ後方ニ傾クルヲナキニ  
 注意スヘシ但シ最初ノ演習ニ在リテ強ク後足ヲ前足ニ  
 引寄せシムル兵ハ此二弊ヲ免ル、一能ハサルモノトス  
 第十九 各週ノ預定左ノ如シ

第一週 自然ノ行進歩調ヲ止メ但シ勉メテ自然ニ正  
 シキ姿勢ヲ取リ膝節ヲ伸シ及ヒ足先ヲ下方  
 ニ向ケシムル如ク誘導シ決シテ嚴格ニ之ヲ  
 正スヘカラス又其歩調ヲ迅速ナラシムヘシ  
 歩調急力ナレハ速歩ニ於ケル凝固ノ弊害ヲ  
 預防シ得ヘシ

第二週 各個速步行進 此行進ハ單ニ教官ノ教育ニ  
 止マリ助教ハ柔軟體操ヲ教ユ又行進ノ際ハ  
 兩臂ヲ腰ニ當テ及ヒ此週ニ於テハ膝節ハ少  
 シク高く舉ケシメ以テ足尖ヲ下方ニ向ケ易  
 カラシムヘシ(九十乃至百歩ノ調子)



## 第三週

同上尙ホ教官ノミノ教育トス而シテ手ハ腰部ニ方テ又ハ背後ニ交叉ス此週ノ終リニ於テハ各個ノ通過行進(教官前)ヲナサシム此時兩手ハ背後ニ交叉シ凡ソ十乃至十五歩ノ距離ヲ間スヘシ又停止ノ號令ヲ左(右)足ニ就テ下シ孰レノ足ニテモ正シク停止シ得ヘカラシムヘシ(百歩ノ調子)

此週ヨリ駈歩ヲ用ユ

## 第四週

同上ノ外行進間ヨリ側面ニ行進シ速歩ヨリ歩調ヲ止メ及ヒ右轉回ヲ行フ但シ善良ノ行進者ニ左手ヲ振動セシム(右手ハ背後)

## 第五週

此週ノ半ヲ過クレハ五分時間六歩ノ距離ヲ以テスル通過行進(百〇五歩ノ調子)

同上 舉動ヲ附シ嚴正ニ行進セシム且ツ此週ノ半ヨリ執銃各個行進ヲ教ユ又徒手ノ行進ニ在テハ一步ノ間隔ヲ取リテ二名宛左右ニ併列セシム日々演習終リノ五分時間六歩ノ距離ヲ以テスル通過行進(百十五歩ノ調子)各個ノ通過行進(執銃及ヒ徒手)但シ行進中ニ號令ヲ以テ頭ヲ右(左)ニ轉セシム

## 第六週

此週ニ於テ猶ホ行進ヲ能クセサル者ハ右ノ演習ヲ徒手ニテナサシム



第七週 同上ノ外襲歩但シ速歩ニハ喇叭ヲ用ユ  
第八週 同上但シ惡シキ行進者ハ此週ヨリ特別ニ之ヲ教育ス

第九週 同上ノ外前後ニ重疊シ或ハ左右ニ併列セル  
毎二兵卒ノ通過行進(左右ニ併列スルキハ一歩及ヒ定間隔ヲ以テ交互ニ行ハシム)  
又行進中ノ轉回及ヒ斜行進

第十週 同上ノ外前後ハ三(四)左右ハ二(四)名ノ行進終  
リニ一步ノ間隔ヲ以テスル全教育班ノ正面  
行進但シ此行進ヲ勉メテ長キ距離ニ於テス  
ルキハ分列行進ニ最良ノ預行演習タルモノ

トス而シテ左右ノ整頓ニ甚シク注意スヘカ  
ラス

第十一週 同上ノ外半教育班及ヒ全教育班毎ニ行フ  
分列行進ニ喇叭ヲ吹カシムルヲ日々半時間  
トス

又タ半(全)教育班行進中ノ側面行進及右轉回  
斜行進及ヒ方向變換ヲ加フ

第十二週 各個及半(全)教育班ノ分列行進ハ喇叭ヲ用  
フ但シ頭ヲ右(左)ニ轉シ或ハ前面ヲ直視ス且  
ツ側面行進及ヒ斜行進

第十三週 百十五歩ノ調子ニ於ケル各個全教育班及



ヒ小隊ノ分列行進(全教育班及ヒ小隊ノ分列  
行進ニハ喇叭ヲ用ユ)

第十四週 同上

敬禮

第二十 人或ハ敬禮ヲ以テ特別ノ教育トシ練兵場ノ教  
練中ニ胸算セサルモノトセハ大ナル過謬ト言ハサルヘ  
カラス若シ論者ノ如ク之レヲ區別セハ其弊延イテ兵卒  
ノ途上ニ於ケル敬禮ノ姿勢ハ練兵場ニ於テスル者ト大  
ニ異ナリ遂ニ軍人必需ノ勇壯威嚴ヲ失スルニ至ルヘシ  
余ハ部下下士及ヒ兵卒ニ望ムニ途上ニ於テ他人ニ對シ  
敬禮ヲナスハ練兵場ニ習得シタル伎倆ヲ表示スルハ好

機會ニシテ即チ其検査場ナレハ其舉動練兵場ニ於テス  
ルト寸毫ノ差アルヘカラザルヲ以テス

敬禮ハ雷ニ外貌ノミナラス中心以テ尊敬スヘキハ敬禮  
式ニ細説セリ而テ其顔面ハ嚴格ヲ顯シ睨視スルヨリハ  
却テ親愛ヲ表シ其眼清涼ナルノ優レルニ如カス蓋シ嚴  
正ナル容儀ハ姿勢ニ由テ見ハル、モノナリ又其姿勢凝  
固ニシテ狼狽ノ狀アルヘカラス之ヲ要スルニ善良ナル  
敬禮者ハ沈靜ニシテ姿勢正シク着眼宜シキモノトス  
頭首兩肩及ヒ体ノ上部ヲ過度ニ前方ニ出スハ行進中ヨ  
リ停止敬禮スル片ニ最モ多ク見ル所ナリ此弊ノ因テ生  
スルハ停止ノ際終リノ歩幅過大ナルニ在リ故ニ教育ノ



際常ニ之レニ注意スルヲ要ス

兵卒ハ被敬禮者ニ對シ先ツ姿勢ヲ正シ(行進ヨリ停止スルモ亦然リ)次ニ眼ヲ被敬禮者ニ注キ然ル後舉手スヘキヲ要ス但シ姿勢ヲ紊スコナクシテ目送スルキハ其敬禮殊ニ丁寧ナルノ觀アルモノトス

第二十一 各週ノ預定左ノ如シ

第一週 停止間頭右(左)及舉手注目及ヒ敬禮預行ノ爲メニスル行進頭ヲ正面シ或ハ右(左)ニ向ク但シ舉手注目ハ右手ヲ右斜前方ニ出シテ肩ノ高サニ舉ケ次ニ前ノ臂ヲ曲テ指ヲ揃ヘテ帽ノ廡ニ及ホス

第二週 行進ヨリ停止シテ行フ、各個ノ敬禮、行進間下士ニ對スル敬禮

第三週 停止中行進シ來ル上官ニ對スル各個ノ敬禮、及ヒ敬禮者及ヒ被敬禮者互ニ向テ行進スル片ノ各個敬禮但シ此週ヨリハ日々多クモ二十分時間之ニ充ツ

第四週 同上

第五週 第二第三週ノ演習ヲ三四名ノ兵卒ヲシテ同時ニ行ハシム及ヒ物品ヲ携帶シ或ハ吹烟シツ、行進シ上官ニ行遇フタル片ノ敬禮  
第六週 執銃ニテ停止間或ハ行進ヨリ停止シテ行フ各個ノ敬禮及ヒ行進間下士ニ對スル敬禮



第八週 同上

第九週 執銃隊伍(多クモ半教育班)ヲナシタル停止或ハ行進間ノ敬禮及ヒ徒手ノ一部隊行進間ニ行フ敬禮但シ此行進間ノ敬禮ハ横隊或ハ側面縦隊ヲ以テス

第十週 同上

第十一週 同上 徒手或ハ執銃

第十二週

第十三週 同上ノ外全教育班及ヒ小隊ニテ行フ敬禮

第十四週

銃ノ操法

第二十二 武器ハ第一週ニ於テ既ニ新兵ニ渡シ之シヲテ武器ハ殊ニ重要ノ器ニシテ巧ミニ之ヲ使用スルヲ要スルノ精神ヲ惹起セシムヘシ然レトモ銃ノ操法ヲ教ユルハ早クモ第三週ニ於テスヘシ是レ一ニハ之カ爲メ姿勢ヲ崩スヲナク一ニハ銃ノ保存ニ注意セシメ得レハナリ

然レモ第二週ニ於テ之ヲ爲シ得ルモ木銃(銃劍術用)ヲ以テ執銃柔軟体操ヲナサシメ之ヲ以テ輕ク銃ヲ使用シ得ルニ慣レシムヘシ但シ木銃ハ真銃ニ比スレハ其重量輕キモ新兵ノ動作ヲ妨クルニ至テハ其効用異ナルヲナシ又木銃ノ數新兵ノ數ニ充タサルモ各教育班交互ニ



之ヲ行フヲ得ヘシ

各種ノ教育ニ於テ同時ニ多數ノ修正ヲ需ムルノ惡キハ  
既ニ前ニ述フル所ナリト雖モ銃ノ操法ニ在リテハ殊ニ  
之ニ注意セサルヘカラス、是レ此修正長時間ニ亘ルハ  
新兵ハ銃ノ保持ニ堪ヘサルヨリ正シキ部分モ遂ニ修正  
ヲ要スルニ至ルヘケレハナリ故ニ銃ノ操法ハ殊更ニ漸  
進ヲ慮リ最初ハ號令ヲ用ヒスシテ立銃擔銃及ヒ捧銃ノ  
正シキ位置ヲ知ラシメ之ヲ以テ號令中ノ操作ニハ常ニ  
如此モノナルヤヲ示シ次ニ各節ノ操作ニ及フヲ要ス  
兵卒銃ノ操法ヲ始ムルニ至レハ再ヒ正シキ姿勢ヲ失ヒ  
且ツ各種ノ瑕失ヲ顯ハスモノトス故ニ教官ハ殊ニ其姿

勢ノ修正ニ注意スヘシ蓋シ其瑕失ノ主ナルヲ過度ニ右  
手ヲ舉ケ右肩ヲ下ケ及ヒ上体ヲ右ニ傾クルトス、

第二十三 各個ノ預定左ノ如シ

第三週 立銃及ヒ擔銃ノ姿勢但シ此週ノ終リニ於テ

ハ號令ナク各自ヲシテ銃ヲ肩上下ニ置キ及ヒ  
之ヲ下サシム此際体ノ動搖セサルニ注意セ  
シムヘシ

又銃及ヒ解銃但シ徒手數練ニ移ルノ際之  
ヲ教ユ

第四週 捧銃ノ姿勢及ヒ立銃ヨリ擔銃及ヒ擔銃ヨリ立

銃但シ此操法ハ最初ハ號令ナクシテ舉動ノ



ミヲ唱フ

第五週

號令ヲ用ヒ舉動ヲ附シテ行フ擔銃及ヒ立銃ノ操法及ヒ舉動ノミヲ唱フル捧銃及ヒ立銃ノ操法

第六週

號令ヲ用ヒ行フ立銃擔銃及ヒ捧銃ノ操法但シ舉動ヲ附シ時々舉動ヲ附セス且ツ屢々二名宛之ヲ行フ

着劍及ヒ脱劍但シ此演習ハ他ノ操法ノ如ク屢々ナルヲ要セス

第七週

立銃ヨリ裝填但シ姿勢ノミヲ教ヘ裝填セス同上ノ外立銃ヨリ裝填、充填、彈藥ノ抽出及ヒ

立射(射擊預行演習ノ部參照)

第八週

同上ノ外膝射、伏射(射擊預行演習ノ部參照)

第九週

同上ノ外行進中ヨリ膝姿伏姿及ヒ立射膝射且ツ號令ヲ以テスル照準法、打方止メ及ヒ故へ銃(射擊預行演習ノ部參照)

毎二名ノ裝填充填

第十週

同上ノ外射擊諸動作(毎二名)襲歩ノ執銃法、行進中ノ裝填及ヒ行進中ノ着劍及ヒ脱劍

第十一週

同上ノ復習但シ半(全)教育班及ヒ小隊一列或ハ二列ヲ以テス

第十二週

同上ノ復習



第十三週 各個二伍及ヒ小隊ノ操法射擊但シ小隊ハ  
二列ヲ以テス

第十四週 同上ノ復習

### 射擊預行演習

第二十四 此預行演習ハ教育ノ初週ヨリ始メ銃ノ操法  
漸ク其度ヲ進ムルニ至レハ此演習モ亦射擊ノ姿勢、裝填、  
充填及射擊等號令ヲ以テ施行シ得ルニ至ルヘキナリ是  
レ操典中ニ射擊ニ關スル精細ノ動作及ヒ注意ヲ記載セ  
サル所以ニシテ此演習ハ操典ニ密着シテ離ルヘカラサ  
ル所以ナリ故ニ第七週ノ終リニ於テハ新兵ハ此教育ニ  
由リテ既ニ空包ヲ發射シ得又第一期ノ終リニ於テハ各

兵少クモ三個ノ實彈ヲ發射シ終ルヲ要ス  
射擊預行演習ハ特ニ精細ノ注意ヲ以テ教ユヘキハ射擊  
教範ニ載セテ明カナリト雖モ教官兵卒共ニ之ヲ以テ退  
屈ナル教練ノ一トシ熱心之ニ從事スルヲ欲セス且ツ其  
教育精密ナラサルハ余輩能ク知ル所ナリ故ニ當該將校  
ハ此弊ヲ除去スルヲ勉メサルヘカラス  
此ノ如キ弊害アルヲ以テ若シ之ヲ爲シ得ルキハ此教育  
ヲ專ラ射擊掛ニ任スルヲ良トス然ルトキハ練兵場各教  
育班出場ノ地ノ一隅ニ一教場ヲ設ケ射擊掛下士(要スル  
トキハ上等兵一名ヲ附ス)ハ此所ニ於テ其準備ヲナシ各  
教育班ヨリ各一名(四名ヲ出サシメ絶ヘス之ヲ教育スル



ヲ最モ良トス然ルトキハ前ノ弊害ヲ除去シ且ツ教育班  
教育ノ時間ニ餘裕ヲ得ルモノトス

第二十五 各週ノ預定左ノ如シ

第一週

一、架上照準即チ標的及ヒ照尺ノ説明及ヒ照  
準 二、左眼ヲ閉ル<sub>1</sub>堅ク銃把ヲ握ル<sub>1</sub>(銃ヲ  
架上ニ托ス) 三、徒手立射ノ姿勢但シ二三ハ  
射撃掛上等兵之ヲ教ユ

第二週

一、同上ノ外各種ノ照準線ヲ以テ一點ヲ照準  
スル<sub>1</sub>照準ノ修正及ヒ立射ノ姿勢ニテ銃ヲ  
肩ニ接ス 二、射撃規則

第三週

一、同上ノ外照尺主用ノ理解及ヒ射線ノ説明、

呼吸ノ作用(立射ノ姿勢ニテ兩眼ヲ銃口ニ注  
ク) 二、立射ノ姿勢ニ於ケル照準(銃ヲ肩ニ舉  
クル<sub>1</sub>呼吸シ銃ヲ肩ニ着ケテ呼出ス)照準間  
呼吸ヲ閉チテ一點ヲ照準ス

第四週

架上照準演習ノ續キ、立射ノ姿勢及ヒ引金ヲ  
壓スル<sub>1</sub>(初メハ教官射手ノ食指上ニ己レノ  
食指ヲ加へ徐々ニ之ヲ壓ス)

第五週

同上ノ外階段托架上ニ於ケル照準(教官ハ照  
準検査器ヲ以テ照準ヲ検査ス)徒手膝射ノ姿  
勢

第六週

同上復習



第七週 托架上ノ狹窄射擊(距離十五米)臂上立射、彈着ノ豫言、執銃膝射ノ姿勢

第八週 托架上ノ狹窄射擊(距離十五米)良好ノ射手ハ臂上射擊(同距離)及ヒ膝射ノ姿勢ニテ照準スルヲ

第九週 第八週ノ外徒手伏射ノ姿勢、臂上照準及ヒ依托伏姿

第十週 臂上狹窄射擊、隱見的及ヒ橫行的ニ對スル照準及ヒ空包射擊

第十一週 同上ノ外地物ヲ應用スル射擊  
第十二週 同上ノ外實包射擊(預行射擊)

第十三週

同上

第十四週

### 柔軟躰操

第二十六 柔軟體操ハ最初ハ午前ノ演習ニ在テモ特別ニ之カ時間ヲ設ケテ教ユルノ外常ニ教練補助ノ方法トシテ他ノ教練間助教ヲシテ之ヲ復行セシメ及ヒ午後ノ演習午後ハ通常午前ニ教ヘタル課目ノ復習ニ於テ施行セシムヘキモノトス而シテ柔軟體操ハ他ノ教練ヨリモ早ク二名若クハ三名毎ニ教ユルヲ得ヘシト雖モ又同時ニ多數ノ兵ヲ教習スルヲ避クヘキナリ蓋シ體操ノ要ハ筋肉ノ活動ニ由リテ体力ヲ增加セシメ且ツ之ト共ニ體



格ノ瑕失ヲ矯正スルニ在ルヲ以テ監視周到ノ度ヲ考察セサルヘカラス然レモ体操ハ固ト補助ノ術ナレハ其一舉一動ニ就テハ他ノ諸教練ノ如ク齊一ヲ期スルヲ要セサルヘシ是レ体操ハ他ノ教練ニ先タチ二(三)名同時ニ教ユルヲ得ル所以ナリ

他ノ教練中補助トシテ用ユヘキ体操ハ其施行中ノ教練ニ適應スルヲ肝要ナリ假令ハ行進ニ際シテハ脚ノ運動、銃ノ操法ニ在テハ臂ノ運動ヲ演スルカ如シ又教範ニ載スル運動ヲ以テ體格ノ瑕失ヲ矯正シ能ハサルモノアルハ教官ハ之ニ要スル手段ヲナスヲ許スヘキナリ其手段トハ何ソ曰ク射撃ニ際シ手首ノ轉回不自由ナルモノ

アルハ之ヲ廻サシムル等是レナリ

**第二十七** 第一週ニ於テハ柔軟体操ハ補助ノ演習トシテ之ヲ行フヨリモ尙一ノ課目トシテ之ヲ教ヘ新兵ヲシテ速カニ一般ノ瑕失即チ當初ノ硬固ヲ柔軟ナラシメ及ヒ關節ノ屈折ヲシテ自在ナラシムルヲ要ス其他各人ニ就テノ瑕失ヲ矯正シ及ヒ体力ノ増加ニ要スル柔軟体操ハ補助ノ演習トシテ他ノ教練間之ヲ行ヒ或ハ午後ニ之ヲ演スルモノトス

執銃柔軟体操ハ第二週ヨリ始メ之ヲ以テ銃ノ操法ヲ容易ナラシムヘシ第三週以下ニ在テ柔軟体操ヲ特別ノ時間ニ教育スヘキハ午後ノ演習ニ於テスルノミ



器械體操

第二十八 器械體操ハ左ノ二個ノ目的ヲ有ス

一 体力ヲ増加シ及ヒ体格ノ瑕失ヲ矯正ス

二 敢爲ノ精神ヲ養成シ及ヒ兵卒諸動作ノ輕捷ヲ

需ムルニ在リ

此第一項ハ新兵第一期ノ教育ニ要シ第二項ハ教育第二期以下殊ニ二年及三年兵ニ求ムヘキナリ若シ新兵ニ此第二項ヲ需ムルキハ却テ恐怖心ヲ來タシ且ツ兵卒強テ之ニ從ハント欲スルカ爲メ各人固有ノ体格ヲ保續シ決シテ其瑕失ヲ矯正シ得ルノ効力ナキモノトス故ニ新兵入營ノ當初之ヲシテ或ハ高キニ登ラシメ或ハ高キヨリ

飛跳セシムル等ノ諸運動ハ實ニ此兵ノ教育ニ必要ナラサルノミナラス徒ラニ將來ノ危險ヲ苦慮シ遂ニ兵役ヲ嫌厭スルニ至ルヘシ

故ニ新兵ノ器械體操ハ簡單ニシテ体力ヲ増加シ及ヒ其瑕失ヲ矯正スルニ止マルヘキヲ以テ左ノ諸運動ヲ必要トス

一 横木手摺及ヒ棚ニ於ケル懸垂但シ之ニ依テ握力

及ヒ腕力ヲ増加シ射撃ニ際シテ銃ノ保持ヲ確實

且ツ容易ナラシムルモノトス又其上下ハ三回若

クハ四回連續シテ行フヘキナリ

二 斜梯ノ裡面ヨリスル懸垂及ヒ此懸垂ヨリ兩手ヲ



以テ登降スルヲ但シ此効力ハ殆ント第一項ニ同シ

斜梯ノ裡面ニ起テ兩手ヲ以テ肩ノ高サニ就テ横木ヲ握リ兩足ヲ握リタル横木ヨリ二個隔テタル横木ニ置キ膝節ヲ伸シ兩足尖ヲ矩形ヨリ稍狭ク開キテ体ヲ懸垂スルヲ但シ之ニ由テ膝節ヲ柔軟ニシ姿勢及ヒ行進ノ要領ヲ知ラシム

三 幅飛及ヒ高飛ニ於テ其飛跳ノ後ハ神速且ツ強ク膝節ヲ伸シテ之ヲ相近ケ以テ膝節ヲ成ルヘク接スルニ慣レシムヘシ

四 吊棒及ヒ繩ニ於ケル登降

五 此三種ノ器械ニ熟シ新兵此演習ヲ好ムニ至レハ稍高尙ノ運動ヲ教ユルニ至ルヘシ

此諸種ノ演習ニ於テ一演習ノ前後及ヒ其間ニハ常ニ善良ノ姿勢ヲ保タシムルニ注意スヘシ故ニ器械体操ニ於テ動作ノ判断ハ姿勢ノ善惡及ヒ其動作ニ於ケル体力使用ノ適否ヲ以テ第一トナスヘシ又諸種ノ演習ハ適當ニ之ヲ交換シ決シテ倦厭セシムルヲナキヲ要ス

此演習ハ第二週ノ終リ又第二週ノ始メヨリシ日々午後ノ時間ニ於テ或ハ教官其班ノ全兵ヲシテ之ヲナサシメ或ハ教官他ノ演習ヲナス間ニ於テ上等兵ヲシテ之ヲナサシムヘシ而シテ上等兵(助教)ヲシテ之ヲナサシムル片



ハ上等兵ハ下士ノ指揮ニ從ツテ其班内ニ名宛ヲ率ヒテ  
体操場ニ至リ所命ノ演習ヲナサシムルヲ良トス又若シ  
教官下士体操場ニ出ツルキハ上等兵ハ新兵ニ徒手或ハ  
執銃柔軟体操ヲ復習セシムヘシ

但シ最初ノ三四週日間ハ日々此演習ヲナシ爾後ハ午後  
一週ニ二回之ヲ行ハシムルヲ適度トス

第二十九 傷者及ヒ病者ハ最モ注意シテ之ニ從事セシ  
メ若クハ教官ノ權限ヲ以テ一時之ヲナサシムヘカラス  
又新兵ノ負傷打撲ヲ防カンカ爲メニハ熟練ノ者(通常助  
教)適宜ノ地ニ位置シテ之ヲ助介スルモノトス然レモ新  
兵ヲシテ常ニ此助介ニ慣レシメ其決心ノ能力ヲ缺カシ

ムルヲナキヲ要ス但シ教育第二期已下ニ於テハ各兵ヲ  
シテ逐次ニ此幫助ノ位置ヲ採ラシメ以テ此助介ニ由テ  
其運動ノ妙意ヲ知得セシムヘシ

### 野外演習

第三十 野外演習ハ勉メテ速カニ其教育ヲ始メ且ツ爲  
シ得ル限リ屢々之ヲ行ヒ以テ新兵ヲシテ練兵場及ヒ野  
外ノ別ヲ知ラシムヘシ蓋シ練兵場ニ於テハ別ニ命令或  
ハ號令ヲ用ヒサレハ諸動作常ニ同一ナルモ野外ニ於テ  
ハ單一ノ動作ト雖モ地形ニ從ツテ其應用ヲ異ニス又冬  
期ハ多ク天候此演習ニ利アラスト雖モ少クモ一週日二  
回ナルヲ要ス



抑モ入營以前自由ニ市街又ハ野外ヲ彷徨セル新兵ハ爾後同一ノ練兵場及ヒ兵營ヲ見ルヲ以テ其精神自ラ憂鬱ナルモノトス故ニ野外演習ハ新兵ノ歡心ヲ得ルノ一段ニシテ又其精神ト体格上ニ好結果ヲ來タスモノトス是ヲ以テ教育順次教令第十七條ノ行軍及ヒ野外ニ於ケル演習ハ通常併セテ之ヲ行ヒ且ツ極メテ其施行法ニ注意シ新兵ヲシテ倦厭ノ心ヲ懷カシムルヲナク好ンテ之ニ從事シ不知ノ間ニ各種ノ動作ヲ習得セシムルヲ緊要トス

此演習ノ始メニ於テハ新兵ヲシテ古兵ノ野外演習ヲ見學セシメンカ爲メ之ニ隨ヒ行軍シ以テ古兵ノ戰鬪中地形ノ用法、攻撃及ヒ防禦ノ諸動作如何ヲ熟知セシムヘシ而シテ新兵稍其動作ヲ知ルニ至レハ古兵ト共ニ演習シ之ヲシテ競争心ヲ起シ熱心之ニ從事セシメ且ツ之ニ諭スニ其動作古兵ニ優ルヘキヲ以テスヘシ

此演習ニハ常ニ撰拔セル二三名ノ古兵ニ空包ヲ携帶セシメテ敵兵ヲ標示シ以テ此教育ヲシテ常ニ實際ニ近カラシメ及ヒ其進歩ヲ速カナラシムルヲ計ルヘシ又タ此機會ヲ利用シテ掩堡ヲ掘開シ及ヒ之ヲ占領スルヲ學ハシムルヲ良トス

總シテ野外演習ヲ成ル可ク屯營附近ノ地ニ於テスルハ足痛其他疲勞ニ由テ生スル怠倦ヲ防キ其教育ノ進歩



ヲシテ益々速カナラシムル者トス

第三十一 野外ニ於ケル散兵ノ各個教練トハ地物ノ應用ト其地物ニ依リテ射撃スルニ在リ故ニ其行進等ノ如キハ其施行中注意周到ナレハ別ニ之カ各個ノ教育ヲ要セサルヘシ是レ此教育ニ於テ部隊ノ散開諸動作ヲ先ニスル所以ナリ之ヲ略言セハ野外ノ各個教練ハ善良ノ射手ヲ養成スルニ在リト云フヲ得ヘシ即チ各個教練ニ屬スヘキモノ左ノ如シ

- 一 地物ノ應用
- 二 掩蔽物ニ進入スル法
- 三 地物ニ應スル射撃姿勢及ヒ各種依托射撃

四 掩蔽物ノ超過

五 距離目測

第三十二 此演習ハ凡ソ第三週(晚クモ第四週)ヨリ始メ毎週水曜日午前或ハ午後及ヒ土曜日午前ニ於テ之ニ充ツルヲ適當トス其各週預定及ヒ其施行法概テ左ノ如シ

第三週 服裝 演習衣袴脚袴上、下士以下帶劍ノミ

トス

例 當日古兵ハ新兵ノ來着スヘキ時刻ヲ期シテ某地ニ演習ス新兵ハ中隊ノ集合場ニ集合シ其各教官ハ其服裝ヲ點檢シ特ニ靴及ヒ脚袴ノ着裝ニ注意ス



各教官ハ其教育班ヲ二(四)列ノ側面縱隊トナシ互ニ二十乃至三十歩ノ距離ヲ取り新兵掛將校ノ指定セル道路ニ從テ先ツ市街ヲ通過ス此行進間ニ於テ教ユヘキモノ

一 町名及ヒ著シキ建物

一 行進路上ニ在ル上官ノ邸宅

一 市街ニ於ケル敬禮但シ新兵未タ部隊ノ敬禮ヲ知進者ニ遭フトキハ將校又ハ教官ハ進ンテ被禮者ニ其趣ヲ述フヘシ

此ノ如クシテ市街ヲ通過シ終リ野外ニ出ツレハ教官ハ助教ト共ニ左ノ諸件ヲ教育ス

一 遭遇スル地物ノ名稱

一 村落及ヒ河川等ノ名

此際教官ノ殊ニ注意スヘキハ同一ノ地物ニ遭フモ決シテ説明重複ノ勞ヲ厭フナク歩調ト隊伍ニ注意ノ重キヲ加フルヲナク又地物ハ其應用ノ説明ニ亘ルヲナキニ在リ

各教育班ハ既ニシテ指定ノ地ニ達セハ霎時ノ休憩ヲ許シ次ニ古兵ノ戰鬪ヲ遠ク傍觀セシメ教官之ニ單簡ナル説明ヲ與フ

飯路ハ再ヒ往路ヲ取り其既ニ教育セシ諸件ヲ各兵ニ試問ス

此週第二回ノ演習ニ於テハ古兵ヲ用井ス又往路飯路



ニ於テ教ユヘキ第一回ニ等シク唯々其數ヲ増加スルノミトス而シテ演習地ニ至レハ教官ハ單簡ナル説明ヲ以テ散開停止及ヒ集合法ヲ教ユ其法教官ハ其班ニ向ヒ「散レ」ノ號令アレハ各兵ハ前ニ進ミナカラ左右ニ開キ後ロノ者ハ前ノ者ノ左ニ出テ、互ニ二歩位ヲ隔テ、進ムヘキヲ以テシ之ヲ實行セシム而シテ其實行中ニ於テ教官再ヒ説明シ「止レ」ノ號令ニテ各兵ヲ各其位置ニ起立セシム次ニ集合ノ「一」ニ及フモノトス之ヲ行フ「數回」後凡二十分時ノ休憩ヲ與ヘ販路ニ就ク但シ此戰鬥ノ演習ハ未タ地形ノ利用ヲ教ユルニ至ラス

又散開演習ニハ一名ノ上等兵ヲ新兵ノ前ニ進メ下士ハ後方ニ在リテ修正ニ便ナル位置ヲ保ツヲ良トス

第四週 服裝 前ニ同シ

演習 一 往路歸路 地形ノ識別、應用及ヒ其應問

但シ往路ト歸路ヲ異ニス

- 一 停止及ヒ行進間ニ於ケル散開、集合及ヒ停止ノ復習

- 一 各種停止ノ姿勢 前進 躍進

此演習ヲ數回復行ノ後散兵ノ各個教練ヲ教ユ其課目ハ掩蔽物ノ用法、之ニ近接スル「一」及ヒ其掩蔽物ノ超過ナリ之ヲ教ユルニハ各班ハ「一」ノ掩蔽物後ニ位置シ先



ツ教官ハ説明シツ、部下ノ上等兵ヲシテ此地物ヲ應用セシメテ其模範ヲ示スヲ良トス

第五週 第四週ノ復習

第六週 服裝前回ノ外銃ヲ携フ但シ下士上等兵ハ要スル片ノミ銃ヲ携フ

往路歸路 四列側面縱隊ニテ行進ス而シテ

第四週ノ教育ノ外、方位ノ識別

一 執銃ニ於ケル前回散開演習ノ復習

一 各個教練ハ掩蔽物後ニ於テスル各種照準法(胸墻後、壕内、樹木(大小)及ヒ胸壁後ニ於ケル銃ノ依托)ノ説明

一 各個速步行進

往復路ノ行進ニ於テハ各兵ニ前後ノ重疊ヲ保タシメ及ヒ銃ノ擔ヒ方ニ注意シ又タ換ヘ銃ヲ教ユ

執銃散開ニ在テ兵卒ニ諭スニ銃口ノ下カラサルヲ及ヒ其保持ハ最モ確實ナルヘキヲ以テスヘシ是レ銃ノ破損ハ散開運動ニ於テ最モ大ナレハナリ

各個散兵教練ハ上等兵ヲシテ其動作ヲナサシメツ、之ヲ説明シ次ニ一二ノ伶俐ナル新兵ヲシテ之ヲ實行セシム但シ以下此教育ハ之ニ準スル者トス

第七週 服裝前回ニ同シ

一 前回ノ復習



- 一 前回ノ外、行進間着劍、脱劍及ヒ裝填
- 一 各個教練 前回ノ復習但シ各新兵ヲシテ之ヲナサシム
- 一 各個及ヒ伍ノ速歩ノ行進

第八週 服裝 前回ニ同シ

- 一 往路歸路前回ノ外、途上縱隊ノ行進法及ヒ之ニ關スル説明
- 一 前回ノ外、襲歩及ヒ突貫
- 一 前回ノ復習及ヒ防禦ニ於ケル射擊
- 一 各個及ヒ伍(半)全(全)教育ノ班速步行進

此週ノ戰鬥演習ニハ新兵ヲ古兵ト混同シテ行フヲ良

トス

第九週 服裝 前回ニ同シ

前回ノ復習

第十週 服裝 前回ニ同シ

- 一 往路歸路 古兵ヲ以テスル斥候行進ノ説明

- 一 小隊ノ散開演習 即チ散兵線ノ運動、射擊ノ種類、軍紀、照尺ノ裝定(三百米突)及ヒ射擊ノ中止

- 一 小隊密集教練

小隊ノ散開演習ニモ亦タ古兵ヲ以テ敵兵トナシ而シ



テ敵兵ノ位置ハ射擊界内ニ在ルヲ要ス

第十一週 服裝 前回ニ同シ

前回ノ復習殊ニ操典第百廿七ヲ演習スヘシ

第十二週 服裝 前回ニ同シ

一 前回ノ復習攻撃及ヒ防禦ニ關スル諸動作及ヒ騎兵ニ對スル動作

一 各個行進及ヒ小隊ノ密集運動

第十三週 服裝 前回ニ同シ

一 前回ノ復習但シ空包ヲ使用セシム及ヒ掩堡ノ占領

一 步哨及ヒ小哨ノ演習但シ此教育ノ方法

ハ左ニ示ス

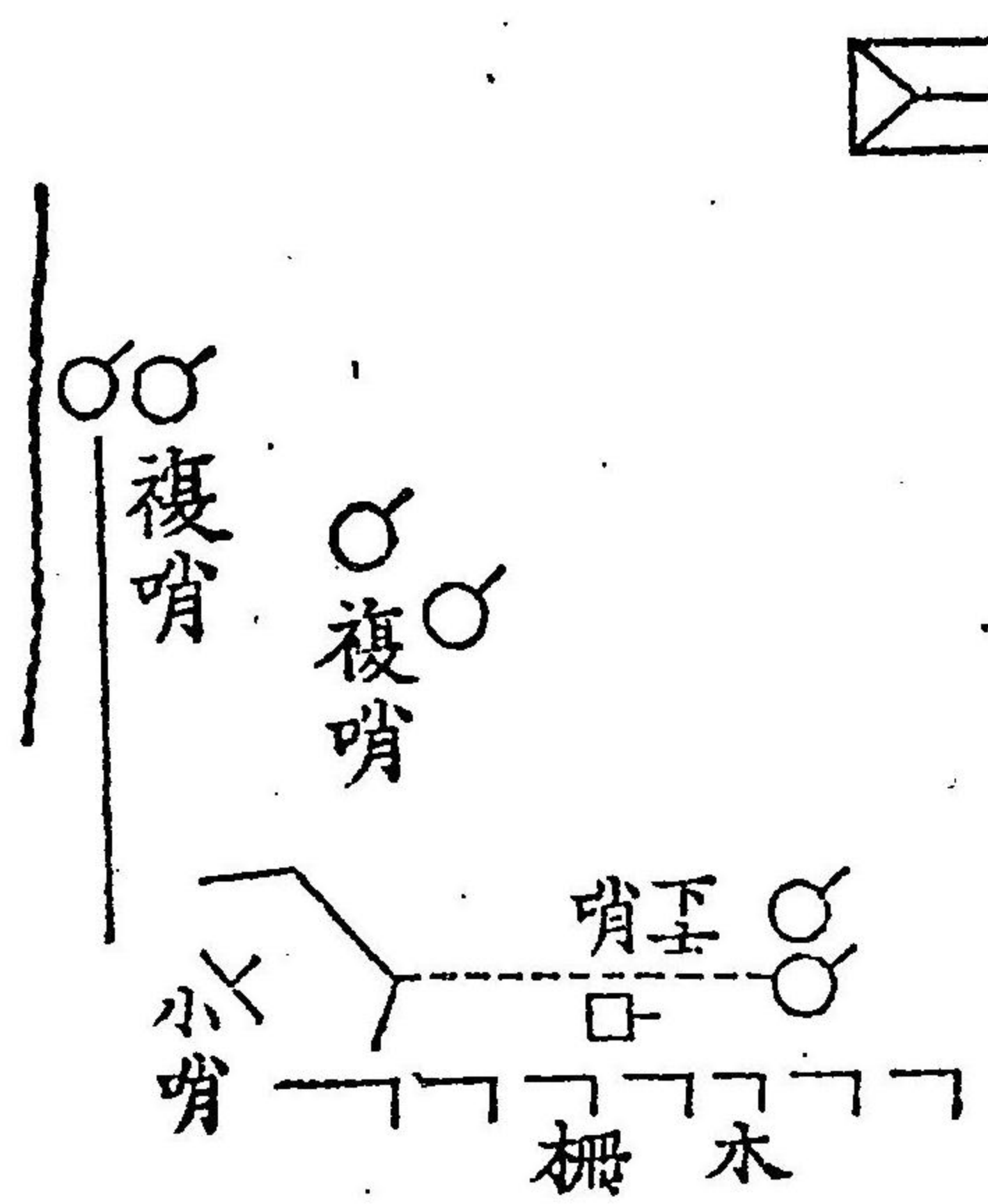
一 各個戰鬪射擊ノ預行

一 各個伍及ヒ小隊ノ分列行進

第十四週 服裝 前回ニ同シ

前回ノ復習

第一号 射擊



步哨及ヒ小哨教育ノ例 此教育

ニ於テハ步哨ノ守則及ヒ報告ヲ

ナサシムルニ在リテ第一期教育

中ハ單ニ其方法ヲ知ラシムルノ

ミトス之カ爲メ新兵掛將校ハ新

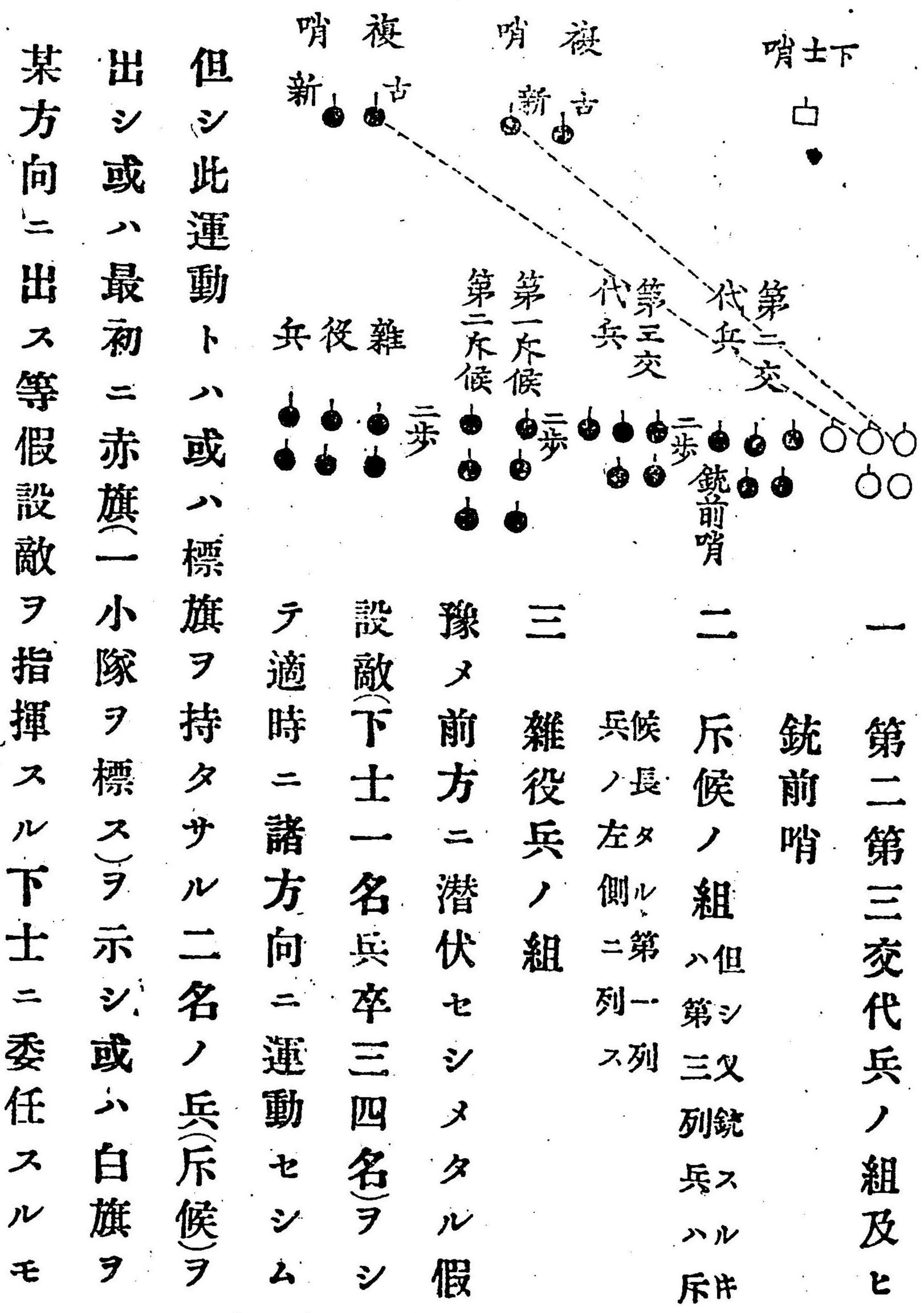
古兵ノ一小隊ヲ以テ上圖ノ如ク



小哨及ヒ複哨ヲ設置ス但シ小哨ヨリ複哨ニ至ルノ距離甚シク遠カラサルヲ要ス是レ教育上報告ノ爲メ無益ニ多クノ時間ヲ費サシメサルカ爲メナリ

此小哨ノ位置ニ引卒シタル後下士哨及ヒ複哨ノ數ニ應シ其小隊ノ兵ヲ區分シ下士之ヲ指揮シテ哨地ニ進ム茲ニ於テ此下士ハ之ニ特別ノ守則ヲ與ヘ複哨ヲ置ク而シテ此複哨ハ一上等兵又ハ古兵ト一新兵ヲ以テス

次ニ下士ハ殘餘ノ兵ヲ引卒シテ小哨ニ歸リタル後小哨長タル將校ハ小哨ノ兵ヲ左圖ノ如ク區分シテ又銃セシメ及ヒ之ニ關スル説明



但シ此運動トハ或ハ標旗ヲ持タサル二名ノ兵(斥候)ヲ出シ或ハ最初ニ赤旗一小隊ヲ標スヲ示シ或ハ白旗ヲ某方向ニ出ス等假設敵ヲ指揮スル下士ニ委任スルモ



ノナリ

此敵ノ顯出スルル古兵ハ新兵ニ報告ノ語辭ヲ教ヘ之ヲ復言セシメテ小哨長ノ所ニ赴カシム

小哨長ハ此報告ヲ聞キ其新兵ノ報告不充分ナレハ之ニ命スルニ再ヒ哨地ニ至リ尙一回古兵ヨリ其報告ヲ聞キ取り來ルヘキヲ命ス小哨長ハ此間ヲ利用シテ交代兵斥候及ヒ雜役兵タル新兵ニ此報告ハ如何ニナスヘキヤヲ試問ス

次ニ步哨タル新兵再ヒ報告シ來ル而シテ其報告尙不充分ナレハ步哨タル古兵ヲ呼ヒ新兵ノ面前ニ於テ小哨長ニ此報告ヲナサシメ茲ニ於テ新兵ニ命スルニ只

今古兵ノ報告ノ如ク報告スヘキヲ以テス而シテ其報告正シケレハ小哨長新兵ニ教ユルニ前二回ノ報告中ノ缺點ヲ以テシ且ツ小哨ニアル新兵ヲシテ之ヲ聞カシム

次ニ小哨長ハ複哨ノ報告ナキ間ヲ利用シテ交代兵又ハ斥候ヲ又銃ノ地ニ集マラシム之カ爲メ第何斥候又ハ交代兵整列ト呼ヒ之ヲシテ整列ニ慣レシムルヲ教ユ

假設敵ヲシテ一複哨ニノミ見ヘ得ル如ク動作セシム之ヲ以テ複哨ノ一名(新兵)ヲシテ隣哨ニ敵情ヲ知ラシムルヲ教ユ之カ爲メ其通知ヲ受ケタル複哨ノ上等



兵或ハ古兵ハ其新兵ヲシテ上ニ示ス如ク小哨長ニ報告セシム而シテ此報告不充分ナレハ通知ヲナシタル新兵ヲ呼ヒ相對シテ報告ヲナサシメ要スルギハ古兵ヲ呼フモノトス

遂ニ假設敵ヲシテ大衆ノ敵トナリ小哨ニ向ヒ進マシム此キ複哨ハ射撃ヲ以テ報告ス(大衆ノ敵我ニ向ヒ進ミ來レハ急射撃ヲ以テ報告スルヲ例トス)小哨長ハ小哨ノ諸兵ヲシテ又銃ノ地ニ起タシメ交代兵斥候及ヒ雜役兵ヲ合シテ二例ニ編成シ右ヨリ番號ヲ附シテ分隊ヲ區分ス次ニ某方向ニ對シテ散開ス

距離測量

第三十三 此教育ハ野外演習及ヒ射撃預行演習ノ時ヲ利用スヘキ者トス而シテ新兵ニハ四百米突以下ノ距離ヲ確實ニ目測シ得ルヲ以テ足レリトナサルヘカラス

第三十四 各週ノ預定左ノ如シ

第四週 週兵場或ハ兵營内ニ標示スル五十及ヒ百米

突ノ距離ヲ步測セシメ各兵ヲシテ其距離ニ應スル步數ヲ記憶セシム但シ步調ナキ行進法ヲ用ユ

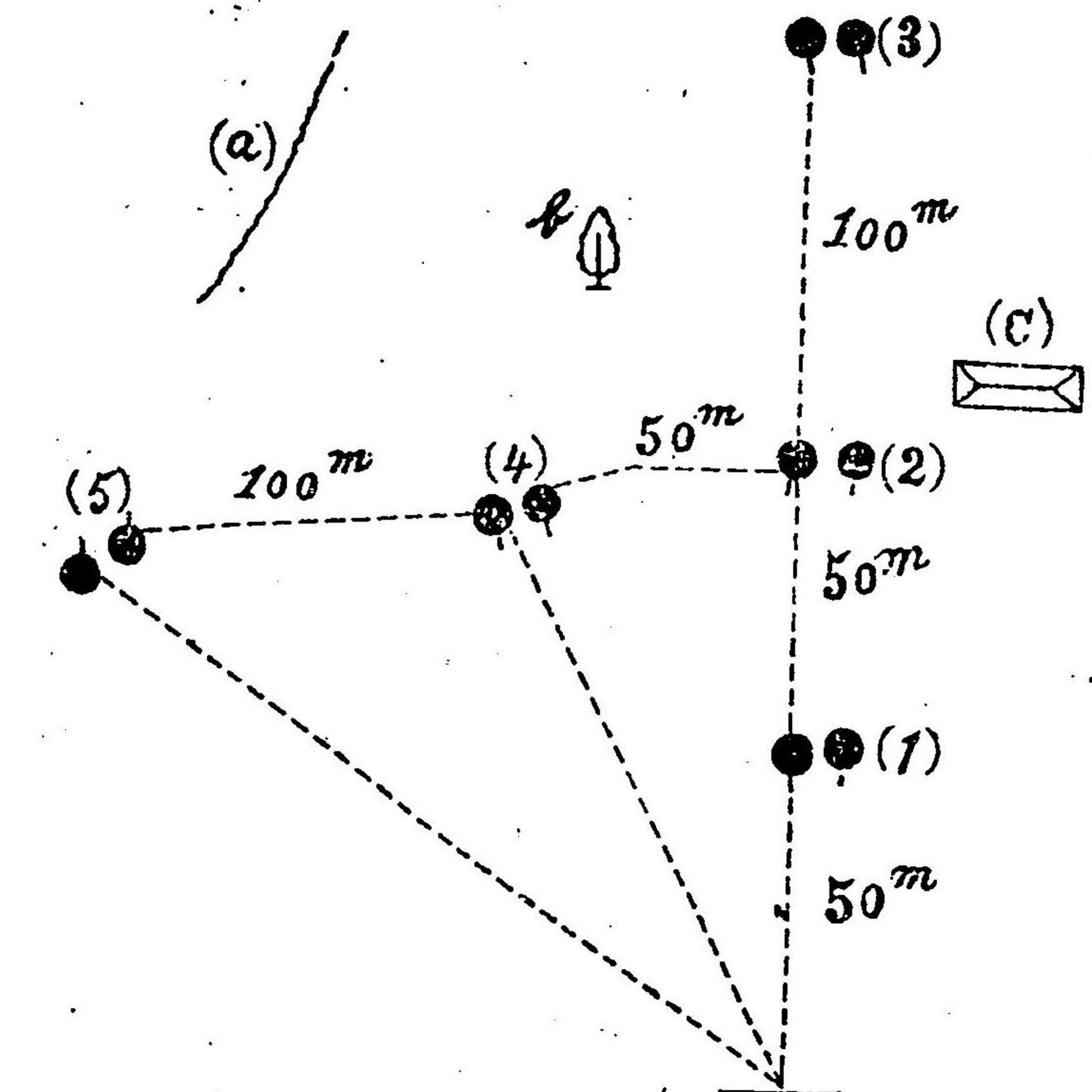
第五及ヒ第六週 前回ノ復習

第七週 練兵場又タハ其他ノ平坦地ニ於ケル二百米突マテノ距離目測説明及ヒ其應用但シ前方



及ヒ其側方ノ距離トス

其法假令ハ新兵ノ一二班ヲX點ニ位置セシメ其前方  
(1)(2)及ヒ(3)(2)ヨリ百米突ノ地點ニ於テ各二名ノ標兵



ニ標旗ヲ保タシメ又タ(4)  
(5)ノ地點ニ於テ(2)ノ側方  
X五十及ヒ百米突ニ各二名  
ノ兵卒ヲ備フ而シテ各地  
點ノ兵卒ハ共ニ起立シア  
ルモノトス  
教官ハ新兵ニ示スニ各距  
離ニ應シテ旗及ヒ兵卒ノ

大小並ニ其現象ノ如何ヲ說示スヘシ而シテ其之  
ヲ說示スルニハ先ツ縦線ヨリシ次ニ横線ニ及ヒ  
彼是相比較セシムルヲ緊要トス之ニ關スル要件  
左ノ如シ

- 一 距離遠隔スルニ從ヒ其物體ニ至ル距離ヲ漸次ニ  
近ク判定スルヲ即チ(1)及ヒ(2)ハ各五十米突ナル  
モ(1)ヨリ(2)ニ至ル距離ハ(X)ヨリ(1)ニ至ル者ヨリ  
小ナルカ如シ
- 又タXヨリ(2)ニ至ル距離ハ(2)ヨリ(3)ニ至ルモノ  
ニ等シ然レモ第二ノ者ハ第一ノ者ニ凡ソ三分ノ  
二ナルカ如シ



一 間隔ハ距離ヨリ大ニ見ユルヲ即チ(2)ヨリ(4)ニ至ル距離ハXヨリ(1)ニ至ルモノニ等シト雖モ實際ハXヨリ(2)ニ至ル距離ニ等シキカ如ク見ユ

一 各地點ニ起ツ兵卒ノ現象ノ指示

一 各距離ニ於テ其傍ラニ在ル草木其他ノ地物ノ現象ヲ記憶セシムルヲ

一 (1)(2)及ヒ(4)ニ至ル各點ノ距離間隔ヲ能ク兵卒ニ記憶セシムルヲ要ス是レ此三點ノ距離間隔ハ他ノ地物ニ至ル距離測量ノ尺度ナレハナリ

新兵能ク此距離間隔及立姿兵ノ現象ヲ知ルニ至レハ膝姿若クハ伏姿標兵ノ現象ヲ指示ス

次ニ教官ハ記號ヲ以テ標旗及ヒ標兵ヲ潜匿セシメ次に某標旗ノミ起テシメ其距離ヲ測定セシメ或ハ其附近ノ地點假令ハ(a)(b)或ハ(c)ノ距離又ハ間隔ヲ測ラシム然ルキハ(1)(2)或ハ(2)(4)ノ標旗ヲ起テシメ以テ尺度ノ使用ニ供セシムルヲ必要トス

第八週 前週ノ復習但シ百五十米突ノ距離ヲ加へ且ツ地形及ヒ光線ニ應シテ物體ノ現象ヲ異ニスルヲ知ラシム

第九週 散開演習中ニ於ケル距離測定但シ野外演習ヲ利用ス

第十週 三百米突ニ至ル目測但シ野外演習ヲ利用シ



照尺ノ用方ヲ兼テ學ハシム

第十一週 以下復習但シ野外演習ノ各時機ヲ利用ス

### 報告及ヒ命令傳達

第三十五 凡ソ兵卒ノ報告及ヒ命令傳達ハ多クハ口演ヲ以テスルモノトス

報告及ヒ命令傳達ヲ以テ殊ニ作戰間ニ於テノミ必要トスルハ大ナル過誤ト云ハサルヘカラス而シテ作戰間固ヨリ之ヲ以テ必要トナスト雖モ平時公私ノ言語動作共ニ此趣旨ヲ保チ些少ノ雜事モ之ヲ忽セニスヘカラス報告及ヒ命令傳達ハ復言ヲ以テ其記憶ヲ證スヘシ復言ハ居常ノ雜事ニ於テ之ヲ慣習セシメ敢テ其教育ヲ怠ル

ナキヲ要ス蓋シ一兵卒其事ヲ復言セントスルニ際シ上官急速ヲ要スル場合ニ在テハ或ハ之ヲ等閑ニシ甚シキハ之ヲ叱咤スルヲナキヲ保セス慎マサルヘケンヤ

### 第三十六

報告教育ノ始メハ新兵ノ答辭(各個教練ノ際呼名ノ答辭等)

ニ在リ而シテ其言語ハ活潑ニシテ高尚ナルヘク又其教育ハ體操及ヒ射擊預行演習ヲ好機トス是レ此演習ハ教育班ヲ離ル、器械體操及ヒ射擊預行演習ノ條參照ノ場合多ケレハナリ然ルホハ教官下士及ヒ射擊掛ハ單簡ナル報告ヲ授ケテ之ヲ復言セシメ且ツ兵卒ノ姿勢ニ注意スヘシ

以上ノ外第四週ヨリ爾後教官下士ハ日々午前ノ演習ニ



於テ少クモ二名ノ新兵ニ單簡ナル報告ヲ與ヘ當日午後  
若クハ翌日之ヲ其下士ニ復言セシムルヲ以テ最モ良手  
段トス之カ爲メ教官下士ハ適當ノ諸報告ヲ手簿ニ筆記  
シアルヘキナリ

號音

第三十七 號音ハ喇叭手ヲシテ屯營ノ内庭若クハ練兵  
場ニ於テ吹奏セシムヘシ其最モ好時機トスヘキハ武器  
被服ノ手入或ハ縫裁時間中ニ之ヲ聞カシメ教官其側ニ  
在テ之ヲ教エ及ヒ新兵ニ應答セシムルニ在リ又要スル  
片ハ喇叭手ヲシテ舍内ニテ口笛ヲ以テ喇叭ニ擬嘯セシ  
ムルモ亦タ便法ナリ

又タ日々用ユヘキ號音ハ之ヲ其教育時間中ニ算入スヘ  
カラス是レ此諸號音ハ新兵日々之ヲ聞キ自然之ヲ判別  
スルニ至ルヘケレハナリ故ニ特ニ新兵ニ教育スヘキ號  
音概テ左ノ如シ

聯隊 第一、第二、第三大隊 第一、第二、第三及ヒ第四  
中隊 氣ヲ付ケ 前進 退却 停止 集合 着劍  
及ヒ脱劍 飯營 非常

勤務口授

第三十八 凡ソ善良ナル兵卒ハ口頭ノ辨解巧ミナラサ  
ルモ其實行其要ヲ得ルニ在リ故ニ兵卒ニ要スル諸事ハ  
可成實際ニ就テ其用法ヲ理解セシメ以テ口實相反スル



ノ憂ナカラシムヘキナリ然レモ無形ニシテ之ヲ實際ニ  
 徴スルヲ能ハサルモノアリ此種ノ教育ハ室内ノ作業ト  
 ナシ其事ノ難易ニ從ヒ將校又ハ下士ヲシテ新兵ニ口授  
 セシムルヲ要ス然レモ此口授ハ書籍ヲ以テシ且ツ長時  
 間ニ亘ルハ尤モ價值少ナキモノナリ各將校ハ概テ注  
 意スルニ學科ノ暗誦的ニ流レサルヘキヲ以テスルカ如  
 シ然レモ如何セン其試験ヲ行フニ臨ミ暗誦的ノ答辨ヲ  
 要スヘキ問題ヲ用フルハ授教者モ亦タ之ニ應スル準  
 備ヲナサ、ルヘカラス故ニ教授法ノ改正ハ應問法ノ改  
 正ニ在リ

應問ハ實地ト室内トヲ問ハス其問題及ヒ答解ヲ極メテ

短少ニシ某一事ノ應答全教育班ニ亘リ其問題ハ實際的  
 ニ從フヘシ假令ハ敬禮ノヲヲ應問スルニ

第一兵 室内へ某中尉殿(最初ハ單ニ士官ト云フヘカ  
 ラス)來ラハ如何 答 給養班長又ハ上等兵

ニ告ク

第二兵 給養班長及ヒ上等兵不在ナレハ 答 「直レ」

ト呼フ

第三兵 歩兵少佐某殿我大隊長殿來レハ如何 答

「列ニ」直レト呼フ

第四兵 「列ニ」ノ令アレハ如何 答 自分ノ席ニ歸

ル



此ノ如クシテ同一ノ應問ヲ最後ノ兵ニ及ヒ更ニ他ノ事  
件ニ就テ試問ヲ命ス面シテ其問及ヒ其答共ニ單簡明瞭  
ニシテ且ツ迅速ナラシメ他ノ諸兵ヲシテ常ニ此問題ニ  
注意シアラシムルヲ肝要トス蓋シ教授者問題ヲ發スル  
ニ躊躇スルハ己レ自ラ不能ヲ顯ハスモノナリ又若シ前  
例ノ問題ヲ某一兵卒ニ問フトキハ他ノ兵卒ハ之ヲ以テ  
他人ノ問題ト做シ更ニ意ヲ止メサルノ弊アルニ至ルモ  
ノトス

第三十九 將校ノ口授スヘキ課目ハ讀法 皇室ノ大綱  
勅諭 陸軍刑法及ヒ懲罰令ノ摘要 戰鬥間兵卒ノ動作  
射撃ノ規則 軍紀及ヒ服從

トス此諸件ノ口授ハ兵卒ノ精神ヲ養成スヘキ大本ナル  
カ故ニ當該將校ハ其之ヲ爲サントスル毎ニ豫メ之ヲ準  
備シ適例ヲ引證シテ兵卒ニ感動セシムヘキナリ人兵卒  
ノ教授ヲ以テ容易ナリトスルハ大ナル過誤ト云ハサル  
ヘカラス成ル程將校タル者兵卒ノ知ルヲ要スル事件ヲ  
了知スルハ容易ナルヘシト雖モ教法其宜シキヲ得巧ミ  
ニ兵卒ノ腦裡ニ満足ナル會得ヲ與フルハ決シテ容易ノ  
トニアラス必スヤ細心熟慮シテ之カ方法ヲ研究スルニ  
非ラサレハ良好ノ教官タル能ハス  
下士ノ口授ズヘキ課目ハ

部隊ノ識別 上官ノ官姓名及ヒ其尊稱 內務書ノ摘



要 禮式 武器裝具ノ名稱及ヒ手入 服裝

第一章 初年兵第一期間ニ於ケル部隊教練伍ヨリ全教育班ニ至ル教練

第四十 部隊教練ハ伍ノ教練ヲ以テ始メトス而シテ教練ノ進歩部隊ヲ以テスルニ至ルモ少クモ日々教育時間ノ三分ノ二乃至四分ノ三ヲ各個教練ニ充テ以テ部隊教練ニ由テ生スル不正ヲ除去スヘシ殊ニ此期ノ終リニハ各個ノ姿勢ニ注意スヘシ又教科ノ難易ニ由リ二課目ハ既ニ部隊ヲ以テ施行シ得ルモ他ノ課目ハ尙ホ各個ニ行ハシムルカ如キハ新兵掛其人ノ主トシテ撰定スヘキ

ナリトス

部隊教練ニ在リテハ殊ニ整頓ニ注意シ且ツ教練時間ノ多分ヲ之ニ用ユヘシ整頓ハ勉メテ速キヲ求メサルヘカラスト雖モ最初ノ間「直レ」ノ號令ハ之ヲ急ニ下スヘカラス否ラサレハ兵卒概略ノ整頓ヲ求ムルニ慣習スレハナリ其種類及ヒ順次概テ左ノ如シ

其一 平行線上ニ行フ各個全教育班ノ整頓但シ基準兵ヲ出ス

其二 列中ニアル右(左)翼兵(伍)ヲ右(左)斜ニ向ケテ之ニ整頓セシメ或ハ整頓ノ方便トシテ中央ノ兵(伍)ヲ右(左)斜ニ向ケ之ニ準ハシムル



其三 第二列正面ヲ以テ行フ前二項ノ整頓

二列ニ編成セル部隊ノ整頓ニ於テ第二列兵ハ右左ノ整頓ヲ需メスシテ正シク前列兵ニ重ナリ定距離ヲ取ルニ注意セシムレハ自ラ整頓シ得ルモノナリ

行進ハ二名四名若クハ半(全)教育班ノ人員ヲ前後左右ニ併ヘテ之ヲ行フ而シテ各群ノ距離速歩ハ六步駈足ハ十歩ハ行進間正シク之ヲ保タシムルニ注意スヘシ是レ各個教練ニ於テ其歩幅均一ナルモ部隊ノ行進ニ於テハ幾分カ其齊一ヲ缺ク者ニシテ其正シキ距離ノ保持ハ部隊整頓ノ基礎ナレハナリ又タ若シ一群ニシテ其距離ヲ失フコトアルハ其群又ハ次群ニシテ歩調ヲ伸ハサシメ決

シテ之ヲ縮メシムルコト勿カルヘシ

### 小隊教練

第四十一 小隊教練ハ凡ソ終リノ四五週間ニ於テシ而シテ此教練ハ日々一時間ヲ以テ足レリトス且ツ日々演習ノ終リニ於テスルヲ良トス又タ小隊ハ常ニ二列ノ編成ノミヲ以テ運動セス屢々第二列ノ正面ヲ以テシ或ハ前後兩列ニ距離ヲ取ラシメテ各列各個ニ教練ヲナシ以テ後列兵ヲシテ其動作ヲ粗ナラシムルカ如キ弊害ヲ除クヘキナリ

第四十二 各週ノ預定左ノ如シ

第十週 服裝 演習衣袴ニシテ執銃帶劍ノミトス(以下



同)

基礎兵或ハ翼下士ヘノ整頓 轉回 銃ノ操法 裝  
愼及ヒ射擊 橫隊ノ正面及ヒ背面行進及ビ退步  
斜行進 側面行進 側面縱隊ヨリ橫隊及ヒ開進  
駟步襲步

各個分列行進

此整頓ニ於テハ翼下士ハ常ニ正シキ姿勢ヲ保ツヘシ  
若シ此下士列兵ノ整頓ヲ修正セシカ爲メ体ヲ前方ニ  
曲クル片ハ其整頓ヲ遅カラシメ此害延ヒテ中隊大隊  
ノ整頓ニ及ホスモノトス

第十一週 以上ノ外 正面行進ヨリ側面行進ニ移リ

及ヒ之ニ反スル諸運動 駟足ヲ以テスル斜行進

方向變換(部隊ノ正面及ヒ)四列側面ヨリ二列側面縱

隊ニ移リ及ヒ之ニ復スル法 二列ヨリ一列ニ移リ

及ヒ之ニ反スル法

各個及ヒ全教育班ノ分列行進但シ喇叭ヲ吹奏セシム

第十二週 以下 復習但シ第十四週ニ於テハ檢閲ノ際着スヘキ服裝ヲ以テス

伍半(全)教育班及ヒ小隊ノ分列行進但シ喇叭ヲ吹奏セシム

第四十二 部隊ノ野外戰鬥演習ハ既ニ上ニ示ス如ク勉  
メテ早ク且ツ屢々之ヲ行ハシムヘシト雖モ野外勤務即  
チ斥候及ヒ步哨ノ演習ハ新兵ヲシテ唯其要旨ヲ知ラシ  
ムルヲ以テ足レリトナサ、ルヘカラス是レ此兵ハ第一



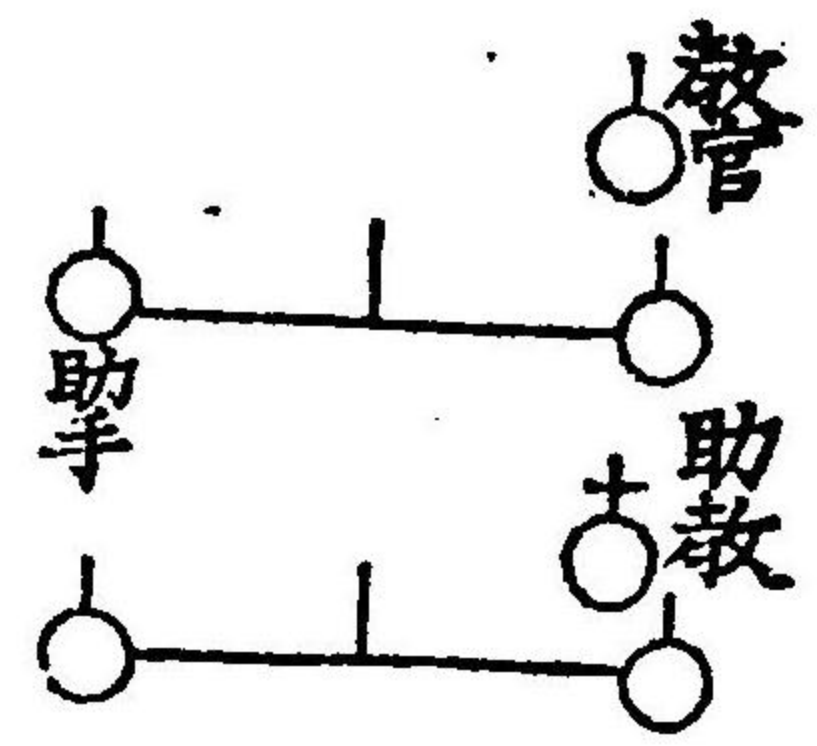
期間ニ於テ既ニ學フヘキヲ數多ナルト此教練ノ爲メ他  
 ノ教練時間ヲ減スルヲ以テナリ蓋シ第一期末ニ於テ新  
 兵ニ要スル技能ハ缺點ナキ嚴正ナル一軍人トナリ敵ニ  
 對シテハ散兵ノ一トナリテ能ク敵ヲ倒シ上官ノ命令ヲ  
 以テ進退スルニ在ルヲ以テ足レリトス其新兵ヲシテ尙  
 此期ニ於テ已ニ獨斷事ヲ處スルノ動作、步哨、斥候ヲ爲サ  
 シムルハ難キヲナリ而テ有事ノ日ハ古兵ヲ以テ其任ニ  
 充ラシムルモ其數充分ナルヘシ故ニ獨立動作ノ教育ハ  
 第二期已下ニ於テスルヲ適當トス

### 第三章 初年兵第一期檢閲ノ例

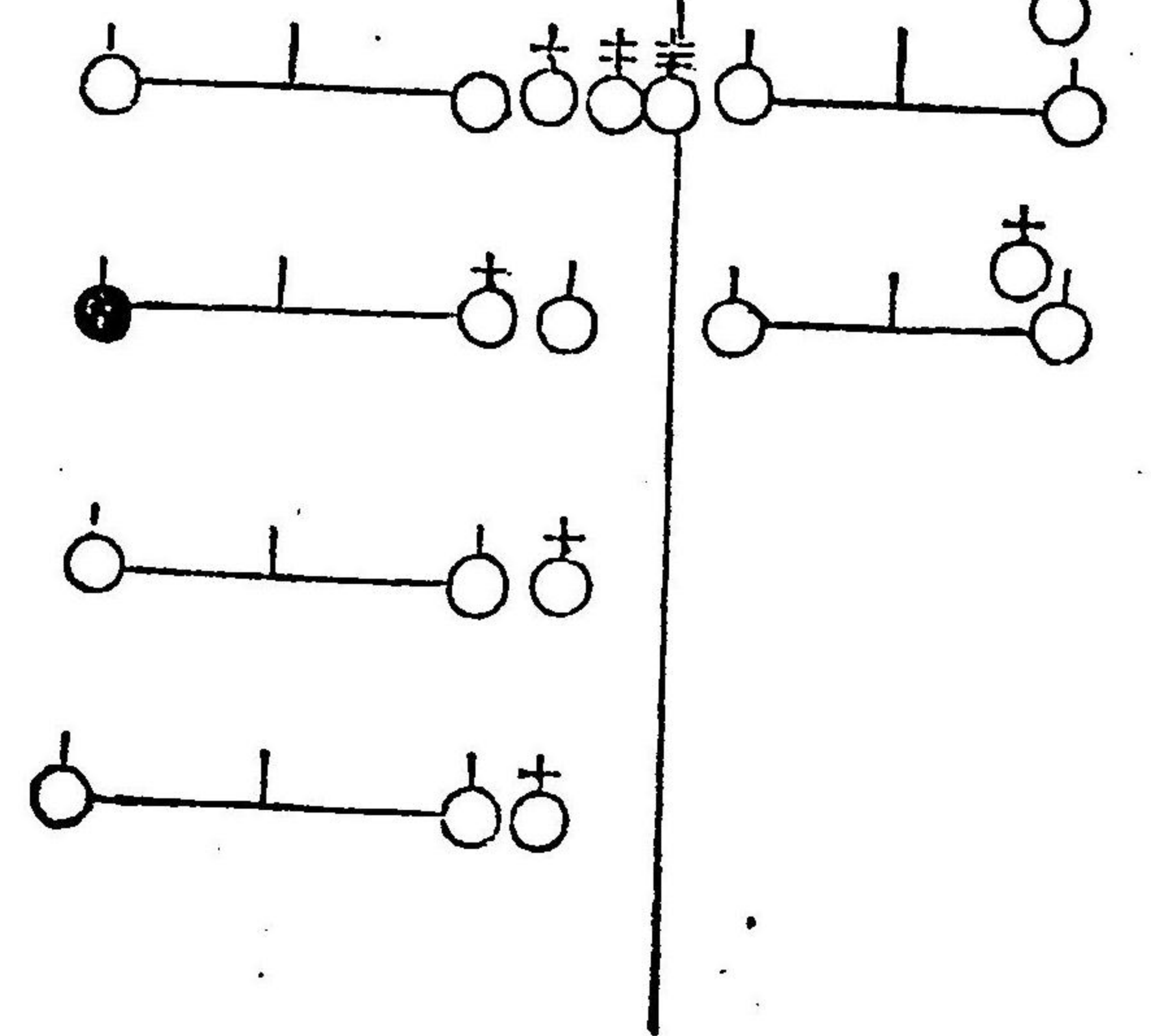
第四十三 抑々各期閱檢ハ檢閱者預メ部下ニ指示スル

教育ノ方針ニ從ヒ各隊ハ勿論同一隊中ニ在テモ年々相  
 均シキモノニアラサルハ諸君能ク之ヲ知ル所ナリ故ニ

中隊長  
新隊長  
將校



圖一第



圖二第

此一例ハ固ヨリ其摸範ヲ  
 舉クルノ意ニアラス唯上  
 ニ述ヘタル教育ノ趣旨ヲ  
 明亮ナラシメンカ爲メ余  
 カ意見ヲ述ヘテ諸君ノ參  
 考ニ供ヘントス

例 檢閱官ハ豫メ檢閱ス  
 ヘキ方法ヲ示スヲナク單  
 ニ當日整列ノ隊形、時刻場



所及ヒ將校己下ノ服裝ヲ命スルノミトス

其一閱兵 中隊ノ初年兵ハ整列スヘキ場所ニ應シテ第一圖或ハ第二圖ノ位置ニ整列ス

各教育班ハ最モ綿密ニ整頓シ最初ニ立銃次ニ捧銃次ニ擔銃ノ順次ヲ以テ檢閱ス

但シ頭ヲ右ニ向ケルシメ或ハ頭ヲ正面ニナシタル儘行フ

此檢査ノ要ハ服裝整頓及ヒ各個ノ姿勢ニ在リ是レ部下各中隊ノ被服ノ保存及ヒ服裝ヲ檢査スルハ檢閱ノ各時期ヲ以テスレハナリ

檢閱官ノ右翼ニ到レハ中隊長ハ其隊ニ頭一右ヲ令シ進シテ人員表ヲ出ス此人員表ニハ總員現在員及ヒ事故減員ヲ區別ス而シテ事故者ハ其理由ヲ詳記セシメ以テ其

中隊教育上ノ注意及ヒ軍紀風紀ノ如何ヲ推知スルノ便ニ供フ

其二武器被服ノ檢査及ヒ學科應問 閱兵ノ隊形ニ在テ武器被服ノ檢査ヲナスト同時ニ各教育班中ノ二三名ニ就キ試問ス

其三銃ノ操法裝填及ヒ射擊 閱兵ノ隊形ニテ各個ニ之ヲナサシム

其四各個ノ行進 全教育班ヲ一地ニ於テ一列側面縱隊ニ集合セシメ逐次ニ檢閱官ノ前面ヲ通過セシメ且ツ斜行進及ヒ行進間右(左)向ヲ檢査ス此片此運動ヲナサシムヘキ地點ニ一標兵ヲ置ク



其五教育班ノ下士ノ號令ヲ以テ行フ部隊(各教育班)教練  
即チ銃ノ操法 裝填及ヒ射撃停止及ヒ行進間) 密集部  
隊ノ襲步 整頓(第四十參照)

其六新兵掛將校ノ號令ヲ以テスル小隊教練 銃ノ操法  
裝填及ヒ射撃(停止及ヒ行進間) 轉回 整頓 正面及  
側面行進其他諸運動 駟足ヲ以テスル二三ノ運動  
其七分列行進 最初ニ教育班次ニ小隊面ヲ以テス此檢  
閱ハ兩中隊檢閱ノ中間ニ於テスルヲ便ナリトス即チ兩  
中隊同時ニ之ヲ行ハシムルヲ得レハナリ又タ行進譜ヲ  
奏擊セシム

此分列行進ニ在リテハ中隊長及ヒ新兵掛將校ハ先頭部

隊ノ右方ニ行進シ檢閱者ノ地ニ至ルヤ兩官共ニ其左方  
ニ位置ス又タ下士ハ翼ニアリテ行進セリ

### 第四章 第二及ヒ第三年兵第一期間 ノ勤務及ヒ演習

第四十四 中隊ハ預備兵ヲ除隊シタル後ハ凡ソ上等兵  
以下總員七十五名ノ古兵ヲ有ス而シテ衛兵勤務(衛戍ノ  
大小ニ從ツテ異ナリ)從卒定數ノ職工及ヒ使役ト臨時ノ  
職工及ヒ雜役、病者及ヒ罰人ヲ減スルキハ演習ニ出場ス  
ヘキ人員平均三十五名ヲ越ユルヲナシ加之新兵掛上等  
兵若クハ古兵ヲ除クキハ僅カニ二十名乃至二十五名ト  
ナルニ至ルヘシ



此演習ハ新兵掛ニアラサル下士又ハ上等兵ヲシテ之ヲ  
ナサシメ一名ノ將校或ハ曹長之ヲ監視ス此將校ハ中隊  
長ヨリ與ヘラレタル方針ニ從ヒ適當ニ演習課目ヲ配合  
シ倍々其進歩ヲ謀ルコト新兵掛將校ニ異ナラス

第四十五 此期ニ於テ行フヘキ古兵ノ教練ハ体操銃劍  
術射擊預行演習分列行進銃ノ操法射擊及ヒ裝填充填野  
外演習及ヒ口授トス此諸教練ハ多少綿密ニシテ實際ニ  
適合セル復習ニ他ナラスト雖モ其使用シ得ヘキ演習時  
間ハ其利用ヲ確實ニシ熱心ニ之ヲ教育スルヲ勉ムヘキ  
ナリ抑々第一期末ニ於ケル新兵教育ノ結果古兵ニ優ル  
ノ原因一ニ茲ニ存ス蓋シ教育者ハ徒ラニ兵卒ノ心裡ヲ

察シテ日々ノ勤務雜役ヲ顧慮シ及ヒ此諸教練ハ已ニ業  
ニ熟知スル所ナリトシ往々此貴重ノ時間ヲ輕々ニ看過  
スルハ免レサル所ナリ豈ニ慎マサルヘケンヤ

### 各個教練

第四十六 体操銃ノ操法及ヒ各個ノ行進ハ當時古兵ニ  
重ナル演習ノ課目トス之ヲ以テ運動及ヒ射擊演習ノ基  
礎トナサソルヘカラス然レモ銃ノ操法其他ノ教練ニ於  
テ舉動ヲ別チ(遲舉動)テ之ヲ教ヘ且各動作ノ解説ヲナス  
ハ無用ノ時間ヲ費スモノトス  
銃劍術ハ先ツ基本ノ演習ヲ行ヒ次ニ試合ニ移ルヲ良ト  
ス而シテ一組ノ演習久キニ亘ルヲ禁シ且ツ一度突レタ



ルキハ之ヲ以テ勝敗ヲ決シタルモノト見做スヘキ習慣ヲ抱カシメサルヘカラス否ラサレハ一日ニ行フヘキ其度數少クシテ中隊ノ全兵ニ行ハシムルニハ若干日ヲ要スヘシ而シテ此教育ノ爲メニ甲乙丙ノ三班アリトシ甲ニ多ク乙ニ少ク又タ丙ニ多キハ余ノ同意シ難キトス寧ロ甲丙ニ少クシテ乙ニ多數ナルノ優レルニ如カサルナリ其他ノ諸教練ニ在テモ亦タ然リ

### 野外演習

第四十七 第一期ハ野外演習ノ爲メ適恰ノ時期ナリ就中夏季ニ於テ田畑ノ損害多キ衛戍地ニ在テハ殊ニ然ルトス而シテ教育スヘキ演習課目ハ戰鬪射撃ノ預行及ヒ

戰鬪射撃、射撃指揮ノ演習、歩哨及ヒ斥候ノ演習、掩堡ノ構造及ヒ口授トス

此諸演習殊ニ射撃ノ指揮、歩哨、斥候及ヒ掩堡構造ノ諸演習ハ下士冬季作業ヲ好時機トス

第四十八 下士ノ冬期作業ヲ利用シテ野外演習ヲナサシムルニハ此作業ノ概略ヲ示サ、ルヘカラス凡ソ古兵除隊ノ後ハ中隊中ノ各下士ヲシテ冬期間少クモ各名ニ回宛不期對抗演習ヲ爲サシムヘキナリ其法一二ノ問題ヲ中尉及ヒ古參ノ少尉ニ作ラシメ且ツ其演習ノ統監タラシム是レ此法ハ中少尉ヲシテ方畧ヲ作ルニ慣レシメ且ツ統裁術ヲ學ハシムルニ在リ而テ此演習ハ單ニ下士



ノ教育ノミニアラス古兵ヲシテ冬期野外演習ノ諸件ヲ忘レサラシムルニ在ルヲ以テ其施行極メテ精密ニ亘リ且ツ各兵卒ニ試問スルニ其將サニ施行スヘキ諸動作ヲ以テスヘシ

假令ハ一名ノ一等軍曹ハ下士(新參或ハ下級)一名及ヒ兵卒二十名ヲ率ヒテ某村ノ入口ニ集合シ他ノ一名ノ二等軍曹ハ上等兵一名兵卒十名ヲ率ヒテ某森林中ノ獨立家屋ニ集合ス而テ統監ハ之ニ任務ヲ與フ此中隊長ハ其傍ラニ在リテ此下士ノ任務ニ從ヒ部下ニ與フルノ命令ヲ聽キ之ニ從ツテ各兵卒ニ各其實行スヘキ諸件ヲ試問スルモノトス但シ此演習ハ其目的下士以下ノ智力ヲ發達

スルニ在ルヲ以テ下士ハ帶劍兵卒ハ執銃帶劍ノミヲ以テ足レリトス

歩哨及ヒ斥候ノ演習ハ出場人員ノ多少ニ關係スルヲナク常ニ之ヲ行フヲ得ル者トス

第四十九 戰鬪射撃ハ射撃場或ハ練兵場ニ於テ各個戰鬪射撃ニ熟シタル後ハ伍ノ演習ヲ行ヒ初メハ空包ヲ以テシ(預行)各兵ノ動作沈靜ニシテ巧ミナルニ至リ實彈ヲ用フヘシ而シテ此演習ノ統裁ハ將校之ヲ爲サ、ルヘカラス

兵卒ハ一地ヨリ各距離ニ現出スル目標ヲ測定シ之ヲ射撃スヘキヤ將タ與ヘラレタル任務ニ從ヒ之ヲ避クヘキ



ヤヲ判定スルヲ要ス熟練ノ兵卒ハ目標ノ現出ニ由テ直  
 ナニ自己ノ考定ヲ以テ之ニ應スル處置ヲ爲シ射撃ヲ實  
 施シタル後其動作ノ理由ヲ述ヘ又タ不熟練ナル兵卒ノ  
 判断及ヒ處置ハ射撃實施ニ先タ、サルヘカラス  
 以上ノ演習ハ指揮官ナキ戰團ト想定スヘシ又タ此演習  
 ニ次テ分隊及ヒ小隊ニ於ケル射撃指揮ノ演習ヲナシ又  
 ハ指揮ナキ戰團演習ヲ行ヒ此機會ヲ利用シテ兵卒ニ戰  
 鬪及ヒ射撃ニ關スル試問ヲナスヲ良トス  
 指揮官ナキ戰團ニ在リテハ兵卒ハ各距離ニ應シ射撃シ  
 得ル限界ヲ知ルヲ肝要ナリ即チ

二百米突以内

總テ目標ヲ射撃ス

三百米突以内

孤立ノ膝姿兵

四百米突以内

伍ノ膝姿兵及ヒ孤立ノ立姿兵

五百五十米突以内

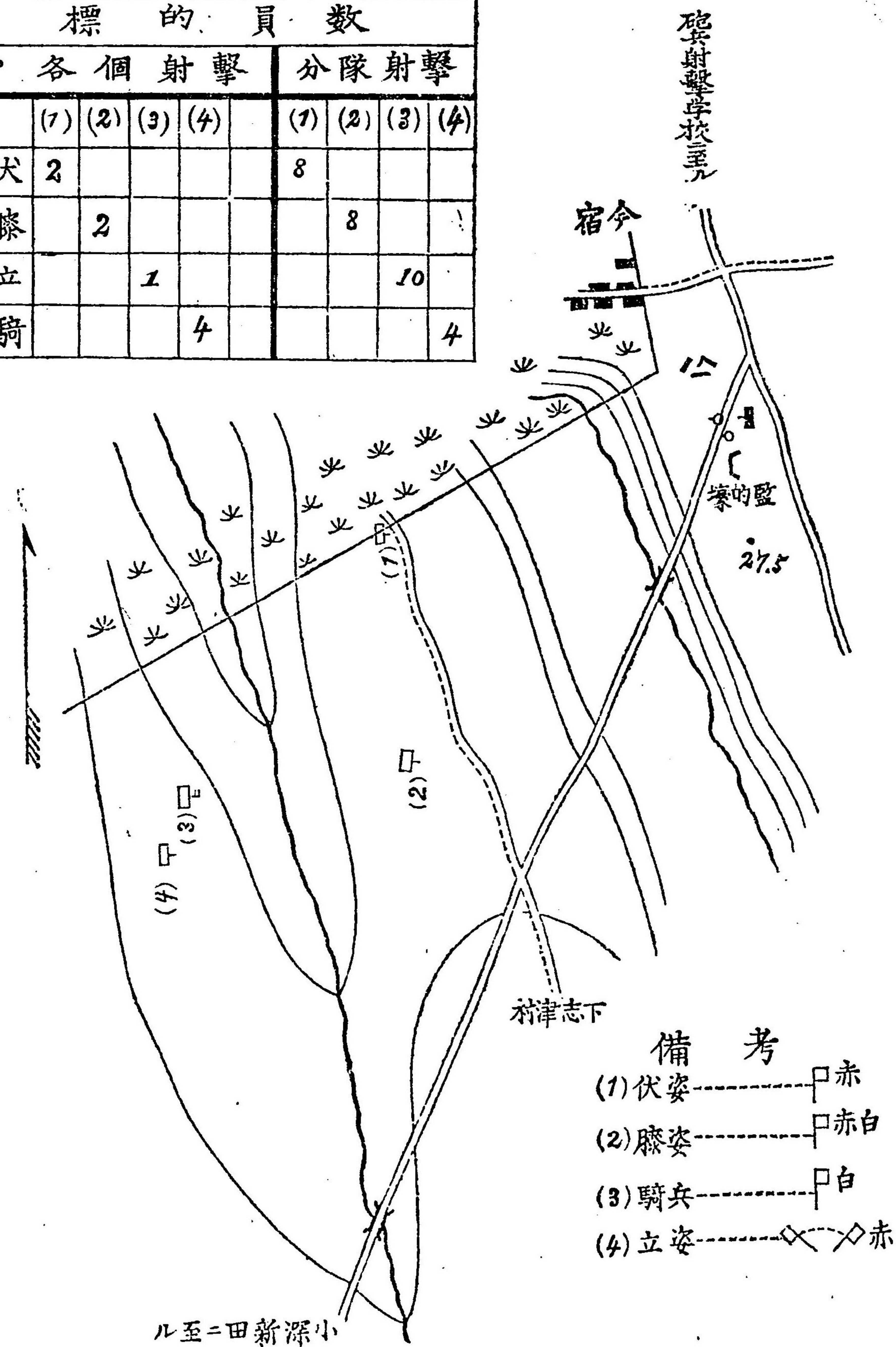
立姿ノ群若クハ孤立ノ騎兵

距離測量ハ此演習ヲ利用シ或ハ別ニ之ヲ爲スヘキモノ  
 トス

各個戰團射撃 各個戰團射撃ノ目的ハ戰團間ニ於ケル  
 各兵卒ノ動作即チ進退射撃及ヒ地物ノ應用ヲ教ユルニ  
 アリ此教育ハ兵卒ニ需ムヘキ最モ主要ノ者ニシテ又タ  
 兵卒偉大ノ智力ヲ用ユヘキナリ是ヲ以テ此教育ハ他ノ  
 諸教練ノ如ク各個ヨリ部隊ニ及ホスニアラス反テ部隊  
 ヨリ始メ各個教練ヲ後ニスヘキナリ



標的員數							
各個射擊	分隊射擊						
(1)	(2)	(3)	(4)	(1)	(2)	(3)	(4)
伏	2			8			
膝		2			8		
立			1			10	
騎			4				4



各個戰鬥射擊ニ於テハ同時ニ二名ノ兵卒ヲ教育セサレハ其効力少ナシ是レ戰鬥中ノ射撃ハ其緩急ニ從フヘキト緩ナル射撃ニ在リテハ一名ノ兵卒他兵ノ彈着ヲ監視シ之ヲ射撃兵ニ告知スルト且ツ他兵ノ射撃間左右ノ地ヲ監視スルトヲ要スレハナリ

射撃セサル兵卒ハ其後方ニ在リテ之ヲ傍觀セシメ教官ニアラサル他ノ將校又ハ下士ヲシテ現時實施スル射撃ニ就テ各兵ヲ試問シ且ツ之ヲ説明スヘシ

標的ノ設置ハ全中隊(要スル兵數中隊)ノ射撃間常ニ相同シキモ妨ケナシ而シテ各兵卒ノ距離側定(照尺裝定)ハ兵卒ノ進退ニ因テ之ヲ變セシムルモノトス又々此射撃



ニ於テハ命中ノ多少ヲ競ハシムルヨリモ寧ロ適當ニ距離ヲ側定シ地物ノ應用其宜ヲ得以テ適當ノ射撃ヲ爲スニ注意スヘキナリ故ニ此射撃ニハ巧ミナル動的ヲ使用セルモノトス

此射撃ニ於テモ必ス單簡ナル一想定ヲ授ケ之ニ由テ動作セシムルヲ緊要ナリ假令ハ此想定ハ歩哨、斥候又ハ外翼ノ散兵等ノ如シ

教官(統監)ハ各個戰團射撃ニアリテハ中隊中ノ一將校、分隊ニ在リテハ中隊長、小隊ニ在リテハ大隊長及ヒ中隊ニ在リテハ聯隊長タルヲ常トス

射撃スヘキ地ノ撰定及ヒ監視兵配置ニ關スル事ハ射撃



教範ニ屬スヘキヲ以テ茲ニ之ヲ記セス但シ各個戰鬥射擊ノ爲メニハ少クモ幅二十米突ヲ有スル谷間ヲ良トス又タ此距離ハ凡ソ六七百米突ヲ以テ足レリトス

例 (1) 凡ソ百五十米突 (2) 二百乃至三百米突  
 (3) ハ四百乃至五百米突及ヒ (4) 五百乃至六百米突  
 ノ地ニ設ケタリ但シ標高<sup>27,5</sup>ノ西方ノ防界線ヨリ起算セリ

各標的ノ地ニハ監的壕ヲ掘開シ茲ニ監的手一若クハ二名ヲ置キ標的ノ起伏及ヒ彈痕ノ修理ニ供シ且ツ反射鏡ヲ用ヒタリ

教育スヘキ部隊(十名)ヲ砲兵監的所ノ側ニ整列セシム但

シ此部隊ハ一名ノ將校(教官)之ヲ指揮シ下士二名之ニ屬セシム而シテ一名ノ下士ハ整列シアル他ノ兵卒ヲ試問シ及ヒ之ニ説明シ他ノ一名ハ教官ノ側ラニアリテ記號ヲ掌ル又射擊掛下士ヲシテ發射彈數ヲ記載セシメタリ

教官タル將校ハ部隊中ヨリ二名ノ兵卒ヲ指定シテ之ヲ其前方凡ソ十歩ノ地ニ起タシメ之ニ左ノ想定ヲ與ヘタリ

一 中隊ハ下志津村ヨリ小深新田ヲ經テ長沼新田ニ向ヒ行進セントス何某ハ斥候長トナリ何某ヲ率ヒ六方野原北方ノ林縁ニ沿フテ長沼新田ニ於テ中隊ニ合スヘシ



此斥候敵ヲ發見シ射擊スルハ何某ノミ射擊ス  
ヘキヲ命ス

此命令ニ由リテ二名ノ兵卒ハ銃ニ裝填シ互ニ二十歩ヲ  
隔テ、行進ヲ始メタリ而シテ此斥候凡ソ三十歩前進シ  
タルハ教官ハ下士ニ命シ(3)騎兵的ヲ立テシメタリ此  
時右兵卒ハ左兵卒ヲ呼ヒ及ヒ其他ニ伏シテ射擊シ教官  
ハ記號ヲ以テ(3)的ヲ倒サシメタリ  
此時教官ハ之ニ左ノ講評ヲナセリ

一 左兵卒ヲ呼ヒ之ニ敵情ヲ知ラシメタルハ宜シ

一 何故ニ伏シタルヤ

答 敵ヲ見タリシ故

一 何故ニ射擊セシヤ

答 敵騎進ンテ我本隊ヲ視ルヲ恐レ射擊シテ之

ヲ退カシメタリ

一 良シ然レモ騎兵ニ對シテハ立姿コソ良ケレ之レ  
騎敵ハ射擊セサレハナリ

一 距離何米突ト測リシヤ

答 四百五十米突

一 良シ

一 何レヲ狙ヒシヤ

答 馬ノ胸部

一 良シ



右ノ外猶照尺及ヒ其他ノ細部ニ就テ講評セシ後其任務ヲ續行スヘキヲ命シタリ

斥候ハ前進セリ教官ハ(2)ヲ起テシメ次ニ之ヲ伏シテ(1)ヲ起テシメタリ是レ敵ノ斥候(2)ニテ我ヲ見テ射撃シ次ニ(1)ノ地ニ移リ伏姿ニテ射撃セシヲ擬シタルナリ次ニ(4)敵ノ側衛ニ擬スヲ起テタリ

此各標的ノ顯出スル毎ニ教官ハ講評シ矯正シ其動作ヲ續行セシメタリ

但シ (4)的顯セシ片ハ兩名ハ急射撃一名ハ實包ヲ用ヒスヲ爲シタリ是レ此兵卒ハ二名ニシテ一齊射撃ヲ號令スルモノナキニ由レリ

此ノ如クシテ兩兵ハ防界線ニテ射撃シ終リタル片教官ハ記號ヲ以テ射撃ヲ止メタルヲ知ラシム之ニ由テ全體的手ハ標旗ヲ起テ出テ、彈痕ヲ調査シ及ヒ之ヲ修理シテ再興ノ記號ヲ待ツ爲メ壕内ニ入レリ

將校ハ再興ノ記號ヲナサシメ次ニ同一ノ兵卒ニ想定ヲ與ヘ且ツ二名中ノ他ノ一名(前回ニ於テ射撃セサル兵)ノミ射撃スヘキヲ示セリ

一 中隊ノ戰鬥線ハ小深新田ヨリ下志津村ニ向ヒ退却中ナリ何某ハ何某ヲ率ヒテ戰鬥斥候トナリ六方野北方ノ林縁ニ沿ヒ標高<sup>27,5</sup>方向ニ退却スヘシ

此命令ニ由テ退却中教官ハ 第一ニ(4)次ニ(2)次ニ(1)終



リニ(3)ヲ起テシメ前回(前進)ニ於ケル如ク講評シ教育シ  
 テ一伍即チ同時ニ二名ノ演習ヲ終レリ  
 部隊戰鬪射撃 部隊戰鬪射撃ノ目的ハ諸級ノ射撃指揮  
 官(分隊長、小隊長及ヒ中隊長)ヲシテ戰鬪間各其盡スヘキ  
 任務ニ應シ爲スヘキ射撃ノ指揮ヲ教育研究セシムルヲ  
 主トシ併セテ其部下兵卒ヲ教育スルニ在リ故ニ此射撃  
 ハ殆ント戰時人員ニ等シキ分隊小隊及ヒ中隊ヲ以テス  
 此部隊ノ人員ハ假令ハ分隊ハ十名小隊ハ六十名若クハ  
 八十名中隊ハ二百名等ノ如キ定數ヲ以テスルヲ良トス  
 是レ百乘算法ニ便ナレハナリ而シテ若シ中隊中ニ若干  
 名ノ兵卒此射撃ノ一ヲ缺クモ憂フルニ足ラサルナリ

分隊戰鬪射撃ニ在テハ最初ニ下士ノ一分隊ヲ編成シ一  
 將校之ヲ指揮シ次ニ兵卒ノミヲ以テスル分隊ヲ編成シ  
 下士高級古參ノ順次ニ從ヒ之ヲ指揮セシムルモノトス  
 標的ノ設置ハ猶ホ各個戰鬪射撃ニ於ケルカ如シ但シ其  
 標的中ニハ一二ノ動的ヲ混用シ且ツ砲的ヲ加フルヲ良  
 トス

想定ヲ與ヘ之ヲ講評スルヲ各個戰鬪射撃ニ異ナルヲナ  
 シ

例(前圖) 標的ノ設置ハ各個戰鬪射撃ノ爲メニセル位置  
 ヲ利用シ附圖備考ニ記スル標的數ヲ増加シタリ  
 教官タル統監(中隊長)ハ一二等兵ヲ混合シテ編成シタル



一分隊(十名)ヲ砲兵監的所北方道路ノ交叉點ニ止メ分隊長タル下士ニ左ノ任務ヲ與ヘタリ

一 敵ハ長沼新田方位ニ在リ

二 中隊ハ前哨トナリ其步哨線今宿村西方水田ノ東岸ニシテ其左翼ハ今宿村妙見堂ニ至リ前哨中隊ハ砲兵射的學校東南方ノ林内(白井道ノ側)ニ在リ

三 何某軍曹ハ一分隊ヲ率ヒ獨立下士哨トナリ今宿南方凹地ノ東岸ニ位置シ前方殊ニ射的學校ヨリ小深新田ニ通スル道路ヲ監視ス可シ

此命令ニ從ヒ分隊長ハ監的所ノ後方ニ分隊ヲ率ヒ一複哨ヲ陸軍倉庫北方ノ林縁ニ出シ銃前哨ヲ監的所ニアラ

シメ兼テ道路ノ步哨タラシメタリ

中隊長ハ記號ヲナシ—(3)—(4)—(2)—(1)—ノ順次ニ從ヒ(敵ノ側衛ノ前進ニ擬ス)標的ヲ起立セシメ且ツ各射撃ニ於ケル講評ヲナシ一回ノ演習ヲ終リタリ

中隊長ハ他ノ分隊ヲシテ側衛トナシ(2)ノ地迄進マシメ茲ニ於テ(4)ヲ起テシメ且ツ分隊長ニ本隊退却セルヲ以テ監的所ノ方向ニ退却スヘキヲ命シ次ニ(3)(騎兵襲撃ニ擬ス)(2)(1)ノ順次ニ標的ヲ起サシメ退却中ニ於ケル側衛(分隊)ノ射撃ヲ教育セリ

第五十 茲ニ指揮官ナキ戰鬥演習ヲナスニ要スル方法ヲ述フヘシ



實戰ニ於テ部隊ノ長タル者殊ニ中隊長以下諸官ノ死傷  
 スルハ免レサル所ナリ故ニ平時ニ於テ之ヲ教育シ實戰  
 ニ於テ如此場合ニ遭遇スルモ之カ爲メ逡巡シテ其機ヲ  
 誤リ已ニ我ニ歸シタル勝利ヲ敵ニ得セシメサル如ク嚴  
 肅ト協力トヲ以テ其功ヲ奏スルヲ猶ホ信任セル指揮官  
 アル如クナラサルヘカラス  
 凡ソ上級ノ指揮官其部下ヲ指揮スル能ハサレハ次級ノ  
 者代リテ指揮ヲ執ルハ軍秩ノ定ムル所ナリ戰鬥中ニ於  
 テモ亦タ然リトス然レモ其事ヲ執ル自ラ限界ナカルヘ  
 カラス則チ代リテ指揮ヲ執ルハ直上ノ部隊ニ止ルヘシ  
 但シ一下級指揮官ニシテ一大部隊ヲ指揮スル如キハ稀

有ナリ稀有ノ事以テ數育ノ基準トナスヘカラス即チ其  
 限界概テ左ノ如シ

其一 直上ノ指揮官缺クルキハ次級ノ者代リテ之ヲ  
 指揮ス假ヘハ中隊長缺クルキハ古參中尉之ニ  
 代ルカ如シ

其二 一指揮官及ヒ其次級者共ニ缺クルキハ之ニ次  
 ク所ノ者其指揮ヲ執ルヲ得ス然ルキハ部隊ノ  
 協同動作トナル假ヘハ中隊長及ヒ其諸小隊長  
 悉ク缺クルキハ一下士ニシテ中隊長ノ指揮ヲ  
 執ルヲ能ハスシテ下士ハ小隊ヲ指揮シ而シテ  
 各小隊ハ協同ノ動作ヲナス



其三 將校及ヒ下士悉ク死傷シ兵卒ノミナルルハ兵卒ハ各個協同動作ヲ爲シ以テ其目的ヲ達ス  
其二ハ部隊ノ協同動作ナリ人或ハ疑ハン何レノ部隊ヲ後方ニ貯フヘキヤ又將タ何人アリテ好時機ニ之ヲ使用スルヤト然レモ部隊ノ協同動作ヲ爲サ、ルヘカラサル時機ハ戦闘ノ初期ニ生スルモノニアラスシテ戦闘漸ク熟シ已ニ業ニ其指揮官ニ由テ部署及ヒ其區分定マリタル後トス故ニ此協同動作トハ只其區分シアル各部ヲ適當ニ使用スルニ在リ是レ操典ニ所謂諸級ノ指揮官ハ上官ノ意圖ヲ察スルノ緊要ヲ掲クルニ在リ  
又其三ノ時期ハ戦闘ノ終末期突入ノ前後ニ生スル者ト

ス是ニ於テ各兵卒ハ射撃ノ効力ニ由リテ敵ヲ壓倒シ全線ノ兵卒協同シテ勇ヲ奮ヒ喇叭手ハ侵撃ノ譜ヲ奏シ全線舉ケテ敵ヲ擊退スヘキナリ是レ操典第二部第六十一ノ原則ヲ活用スヘキノ時トス曰ク既ニ己レヲ指揮スル將校ノ現在セサルルト雖モ下士若クハ勇敢ナル兵卒ヲ表準トスルルハ其身ヲ處置スルヲ得  
此種ノ教育ヲ行フニハ始メハ前進又ハ退却セル戰鬥中ニ於テスヘカラス先ツ停止ノ戰鬥(防禦)ニ於テスヘシ殊ニ掩堡ヲ掘開スヘキ野外工作ノ時ヲ利用スルヲ良トス然ルルハ運動スル假設敵ヲ用ユヘシ(野外工作教育ノ項參照)



此演習ヲ行フニハ銃監タル者其指揮官ニ「戦闘外」ナル單  
簡ナル命令詞ヲ以テ其指揮ヲ止メシム然ルキハ此官ハ  
劍ヲ納メテ其地ヲ去ル此時指揮官部下ニ命令其他總テ  
言辭ヲ發スヘカラス然ルキハ其傍ニ在リ之ヲ觀タル者  
〔副官、曹長、給養掛下士、又ハ傳令使〕ハ同級又ハ次級ノ古參  
將校ノ許ニ赴キ何某「戦闘外」タルコトヲ報告ス

此報告ヲ受クル所ノ者代リテ其指揮ヲ執ル此時高聲ヲ  
以テ「何某大隊、中隊或ハ小隊ノ指揮ヲ執ル」ト呼フモノト  
ス但シ若シ銃監ナクシテ此演習ヲ行フキハ其最上指揮  
官ハ時機ヲ慮リ自ラ「戦闘外」ナルコトヲ其傍ニ在ル者ニ告  
ケ而シテ爾後部下諸官ヲシテ「戦闘外」ニ置クハ此官適時

傳令使ヲ以テ命スルモノトス

既ニシテ全隊ノ指揮ヲ爲スヘキ將校ナキニ至レハ各部  
隊ノ指揮官各其時機ヲ慮リ各部隊運動ノ連繫ヲ誤ラス  
及ヒ後方部隊時機ヲ失セスシテ「戦闘線」ニ加入スル如ク  
動作スルヲ要ス又タ將校下士死傷シテ兵卒ノ「戦闘ス  
ル」ニ至レハ各兵卒ハ時機ヲ慮リテ射撃シ着劍シ遂ニ全  
線ハ一黒線ノ如ク敵線ニ突貫スルニ至ルヘキナリ

第五十一 野外工作 方今火器ノ威力著大ナルヲ以テ  
守者ハ地形ト戰術上ノ目的ニ從ヒ掩堡ヲ構造シテ射撃  
ノ効力ヲ増大ナラシムルヲ勉ムヘキナリ而シテ其構造  
ハ步兵野外工作教範第二編ニ掲ケテ詳カナリ但シ如何



ナル種類ノ掩堡ヲ用ユヘキヤハ專ラ前地ノ形狀ト敵彈ノ種類トニ從フヘシ  
 然レモ此構築ヲナスニハ勉メテ戰鬪演習ヲ兼テ且ツ屢々敵前ニシテ其充分ノ準備ヲナシ能ハサル時機ニ於テスヘシ然ルモハ前方ニ假設敵ヲ設置シ或ハ之ヲ想像シテ構築スルニ慣レシムルヲ要ス之カ爲メ工作ヲナスヘキ部隊(武装)ニ一想定ヲ與ヘ先ツ其工作スヘキ地ノ前方若干ノ距離ニ散開セシメ或ハ複哨ヲ配置シ以テ工作ヲ掩護スルヲ説明シ次ニ此兵ヲ集合シテ工作スヘキ地ノ後方若干ノ距離ニ導キ再ヒ之ニ説明スルニ掩護隊アルモノト見做シ構築ヲ始メシム其法ニアリ一ハ後方ニ

又銃シタル後、工手トナリ出テ、工作ニ從事ス(工作教範第二編第七ノ二)ハ銃ヲ携ヘ散兵線ニ於テ構築スル(工作教範第二編第七ノ一)ナリ  
 其一ノ爲メニハ別ニ之ヲ説示スルノ要ナシト雖モ其二ノ爲メニハ教官ハ圓匙及ヒ小十字鍬ヲ携フル兵ヲ集合シ若シ人員ニ餘リアリ且ツ工具ヲ持タサル者アルモハ之ヲ以テ掩護隊トシ或ハ歩哨トナシ敵ノ近接ヲ報セシムルニ供ス  
 教官ハ二三名ノ下士若クハ上等兵ヲ前進セシム此下士上等兵ハ互ニ二十乃至三十歩ニ散開シテ工作スヘキ線上ニ停止シテ伏臥ス是レ即チ標準手ニシテ別ニ標示ヲ



用ヒサルナリ(工作教範第二編第五次ニ小十字鋏ヲ持テ  
ル工手ハ散開シテ標準線ニ進ミ前線即チ標準手ノ眼線  
ニ一條ノ横線ヲ畫ス此時標準手ハ其線ノ不正ヲ修正ス  
ヘキナリ

此作業ヲ終ルヤ此工手ハ標準手ノ踵ノ線マテ退却シ亦  
タ此ニ一線(後線)ヲ畫ス但シ伏臥シタル人ノ長サハ身幹  
ノ大小ニ從フテ異ナリト雖モ頭ヨリ踵ニ至ル凡ソ一米  
突五十(壕ノ幅)ヲ算シ得ヘキナリ

此間圓匙ヲ携帯スル散兵(工手)ハ後方ニ密集或ハ散開シ  
テ伏臥或ハ蔭匿シ而シテ此經始ヲ終ルヤ其線上ニ進ミ  
教範第二編第七ノ方法ニ從ヒ掩堡ヲ構築セシム

若シ工手ノ交代兵ヲ有スルキハ假設敵ヲ顯ハシ或ハ教  
官ノ號令ニ由テ一度舊工手ニ銃ヲ取ラシメ數回ノ射撃  
演習ノ後交代セシムルヲ利アリトス

既ニシテ達スヘキ工事了リタル後ハ必ス防禦ニ於ケル  
射撃ヲ演習シ且ツ此時ヲ以テ指揮ナキ戰鬥ヲ演習スル  
ヲ最モ利アリトス

鹿柴ノ構造モ亦タ野外演習ノ期ヲ利用スヘシ而シテ鹿  
柴ト掩堡ヲ併セテ構造スルキハ先ツ鹿柴ヲ構造シ次ニ  
掩堡ヲ構築スルヲ順序トス

第五十二 野外演習ニ關スル口授ハ以上ノ諸時期ヲ利  
用シ常ニ其好機ヲ誤ラサルヲ要ス



## 第一期間各週ノ勤務及ヒ演習預定

第五十三 此期內ニ於ケル勤務及ヒ演習ハ勤務及ヒ射擊場ノ景況ニ從フヘシト雖モ概テ左ノ預定ニ準シ得ヘキモノトス

月曜日午前 ノ演習ハ衛兵使役及ヒ職工ニシテ萬已ムヲ得サルモノ、外之ニ從事セシムヘシ

教練ノ爲メ各給養班整列スルルハ先ツ執銃ニ於ケル各種ノ姿勢ヲ綿密ニ検査シ又タ不熟ノ兵ハ老練ノ下士ニ其教練ヲ委スルヲ良トス

又タ教練ノ終リニ於テハ各給養班ハ綿密ニ整頓シ殊ニ前後ノ重疊ヲ正スヘシ且ツ捧銃或ハ立銃ニ於ケル整頓

ヲ検査セシ後各班ハ分列行進或ハ正シキ駈足ヲ以テ其屯營ニ歸ル

教練時間ハ兵卒動作ノ結果ニ從ヒ二時乃至二時半間トス但シ此終リノ半時間ハ不熟兵及ヒ教練中怠惰ナル兵卒ノ爲メニ設クルヲ適當トス故ニ熟練ニシテ且ツ熱心ナル兵卒ハ一時半乃至二時間教練スルヲ以テ足レリトス

月曜日午後 射擊預行演習及ヒ狹窄射擊但シ翌日教練射擊ヲ施行セシメント欲スルルハ其預行演習ハ翌日ノ射擊ニ於ケル姿勢動作ニ限ルヲ要ス

此預行演習ニ次テ器械体操及ヒ銃劍術ヲ復習ス而シテ



午後ノ教練ハ二時間ヲ超ユヘカラス  
 器械体操及ヒ銃劍術ノ教練ヲシテ有効ナラシメント欲  
 セハ勉メテ其教育部隊ノ人員ヲ小ニスヘシ之カ爲メニ  
 ハ銃劍術ヲ器械体操場若クハ其近傍ニ於テスルヲ良ト  
 ス又タ良巧ノ体操者ハ之ヲ助教ニ使用スヘシ  
 午後ノ教練ノ終リニ於テ各給養班毎ニ敬禮ヲ演習セシ  
 ムヘシ  
 口授ハ夕食後若クハ午後ニ於テス  
 上等兵及ヒ撰拔セル兵卒ハ將校之ニ口授ス而シテ其課  
 目ハ前哨及ヒ斥候ノ職務、戰鬥間分隊長ノ處置及ヒ衛兵  
 ノ勤務是レナリ

下士ノ爲スヘキ口授ハ概テ新兵ノ者ニ同シ又タ野外演  
 習ノ口授ハ此週内他ノ口授時間ニ於テス  
 火曜日 午前射撃但シ射的場狹小ナルカ或ハ單ニ一的  
 ノ外使用シ能ハサル片ハ射撃シ得ヘキ人員ヲ指定シ自  
 餘ノ者ハ新兵教練ノ助手トナシ或ハ倉庫物品ノ手入等  
 ニ使用スルヲ得又タ寒氣酷タシキ片ハ逐次ニ小部隊ヲ  
 射的場ニ送ルヲ最モ良トス此事ハ専ラ曹長ノ任スル所  
 ナリ

附言 數個ノ標的ヲ設置シ得ヘキ射的場ハ日々之ヲ  
 數個ノ中隊ニ使用セシムルヲ便トス即チ月曜日ハ  
 第一大隊水曜日ハ第二大隊金曜日ハ第三大隊各使



用シ得其射的場ハ四個ノ標的ヲ設置シ得ルモノト  
 セハ各大隊ハ其射擊日ヲ四中隊ノ爲メニ使用シ第  
 一的ヲ第一中隊第二的ヲ第二中隊ニ充ツル如クセ  
 ハ各中隊ノ教育ニ大ナル便宜ヲ與フルモノトス  
 射擊ニ出場スル部隊ハ出發ニ際シ屯營内ニ於テ銃及ヒ  
 彈藥盒ヲ検査スルヲ常トシ且ツ各兵ハ射擊簿ヲ携行ス  
 但シ此手簿ニハ射擊當日現場ニ於テ其成績ヲ記入シテ  
 各兵ニ送返シ各兵ヲシテ其成績ニ由リ益々練習スヘキ  
 念慮ヲ提起セシムヘシ  
 射的場ノ往復ヲ利用センカ爲メニハ此部隊ヲ警戒勤務  
 ノ一部(尖兵或ハ斥候)トナスヲ要ス而シテ此部隊ニハ各

其動作ヲナサシメツ、其理由ヲ試問スヘシ又タ其尖兵  
 或ハ斥候ヲシテ定規ノ距離間隔ヲ取ラシメス之ヲ相近  
 カツケ以テ殘餘ノ者ヲシテ其試問ヲ聽キ得ヘカラシム  
 ヘシ此殘餘ノ者ハ其行進自由ニシテ且ツ吹烟スルヲモ  
 許スヘシ

又タ此行進ヲ距離目測ニ利用シ兵卒ヲシテ此ノ如キ小  
 部ノ教練ニ熟達セシメ以テ野外演習ノ補助トナスヲ肝  
 要ナリ

火曜日午後 演習シ得ヘキ全兵悉ク當日午前ニ於テ射  
 擊シ得ルカ或ハ其一部ハ尙午後ニ於テ之ヲナスカニ從  
 ツテ其課目ヲ異ニス多クハ午後ハ銃ノ淨拭及ヒ其検査



ノ外更ニ時間アルコトナシ  
不熟ノ射手ニハ此検査前或ハ其後ニ於テ數回ノ預行演習ヲナサシム

若シ射的場ノ景況ニ由リ一部ノ兵當日射撃シ能ハサル  
ルハ午後此兵ヲシテ体操及ヒ銃劍術若クハ倉庫等ノ雜  
役ニ從事セシメ夕食後下士ノ口授ヲ爲サシムルヲ良ト  
ス

水曜日午前 練兵場若クハ野外ノ戰鬪演習射撃ノ指揮  
或ハ野外勤務演習但シ勉メテ下士作業ト同時ニ行フ然  
ルルハ下士ハ現地ニ於テ製スル單簡ノ掌圖及ヒ報告ヲ  
中隊長ニ呈スヘキモノトス

水曜日午後 用辨外出ヲ許ス若シ若干時間演習ヲナサ  
シムルヲ要スルルハ射撃預行演習銃ノ操法若クハ銃ノ  
検査ヲナスヘシ

木曜日午前 月曜日午前ニ同シ但シ口授ヲ加フ此口授  
ハ前日午前ノ野外演習ニ於テ銃監タリシ將校若クハ之  
ニ出場セシ將校之ヲ擔任シ此演習ニ關スル應問ヲナシ  
且ツ其理由ヲ講評スヘシ又夕前日練兵場ニ於テ教練セ  
シルハ此將校ハ

勅諭 其他精神教育ニ從事スルヲ適當トス

木曜日午後 体操及ヒ銃劍術

金曜日午前 此日ハ月曜日ニ於テ事故ノ爲メ演習ニ出



場シ能ハサリシ者ヲ必ス教練ニ從事セシムヘシ此ノ如キ調査ハ給養長班其責ニ任シ曹長此諸兵ニ演習ヲ課スルノ注意周到ナラサルヘカラス

教育ハ射撃預行演習、射撃姿勢、各個教練及ヒ敬禮トス

金曜日午後 体操、銃劍術及ヒ射撃預行演習

若シ土曜日ニ於テ細密検査ヲ要シ之カ爲メ其午前ニ於テ野外演習ヲ施行シ得サルハ金曜日午前ノ教練ヲ野外演習ト交換スヘシ

土曜日午前 練兵場或ハ野外ニ於ケル戰鬪教練

土曜日午後 演習ニ用ユル被服及ヒ日曜日ニ着用スヘキ被服ノ検査ヲナス

毎土曜日ニハ銃ヲ綿密ニ淨拭シ且ツ銃床ニ油ヲ塗ルヲ要シ又夕室ノ内外ヲ掃除セシムヘシ

以上ノ検査ニハ曹長及ヒ給養下士若クハ射撃掛下士常ニ中隊長又ハ一將校ニ隨從シ以テ此諸官ヲ補佐スルヲ要ス

若シ前ニ述フル預定ノ時日中、中隊ヨリ衛兵ヲ出スヘキハ當日ノ日課凡ソ左ノ如ク定ムルヲ良トス即チ徒手各個教練、轉回、整頓及ヒ銃ノ操法ヲ復習ス

凡ソ半時鬪此演習ヲナサシメタル後曹長ハ其兵ヲ以テ衛兵ヲ編成シ中隊長若クハ一將校之ヲ點檢シタル後尙衛兵勤務ノ演習ヲ爲ス凡ソ半時間終リニ閱兵ヲ爲ス



衛兵勤務ニ出テサル兵卒ハ新兵ノ教育班中ニ入りテ之ニ教練ノ手本ヲ示シ或ハ其助手トナルヘシ  
 衛兵下番ノ當日ニハ下番ノ衛兵ニ尠クモ一時間ノ休憩ヲ與ヘテ寢臺ニ就クヲ許シ次ニ武器被服ノ手入ヲナサシメ然ル後之ヲ検査スルヲ常トス又タ夕食後ハ一名ノ下士口授ヲ掌ル其課目ハ專ラ衛兵ニ關スル應問ナルヘシ

日給ヲ給與スル際ハ中隊中ノ兵卒ヲ庭前若クハ廊下ニ於テ二列ニ編成シ中隊長之ニ臨ムヘキナリ而シテ中隊長ハ此ノ如キ時機ヲ利用シテ勅諭又ハ讀法ノ一部ヲ講シ既ニ大隊長若クハ聯隊長ニ由テ處セラレタル罰科

ハ少クモ一ヶ月ニ一回之ヲ讀ミ聞セ又タ中隊長ノ處罰ニ係ル兵卒ニハ屢々其犯罪ノ理由ヲ説明シテ之ヲ教訓シ以テ益々改心セシムルヲ良トス之ヲ要スルニ此官ハ此ノ如キ時機ヲ利用シテ或ハ部下兵卒ヲ撫恤獎勵シ或ハ之ヲ叱嗟教誨シテ善良ナル精神ヲ養成スヘキナリ  
 此兵第一期末ニ於ケル檢閲ハ殆ント新兵ノ爲メニ説述セシモノニ異ナラス



## 第二編 中隊以上ノ教練

## 第一章 總論

第五十四 凡ソ教練ハ指揮者己レノ意中ニ一ノ考案ヲ定メテ指揮號令スヘキハ勿論ナリト雖モ中隊以上ノ教練ニ在リテハ殊ニ注意シテ施行スルヲ要ス所謂應用演習トハ此義ニシテ必シモ戰鬪隊形ヲ採ルヘシト云フニアラサルナリ之ヲ要スルニ練兵場ニ於ケル密集運動ハ戰術上預備タル部隊及ヒ軍隊一地ヨリ他ノ地ニ移轉スヘキ運動ノ預行ト之ニ由テ協力一致ノ軍紀ヲ養成センカ爲メナリ

操典(總則第一、第一部第一、第四及ヒ第二百二十一)ハ丁寧反

復應用ノ必要ヲ説述シ敢テ地形ト時機ニ適合スル千種萬様ノ隊形動作ヲ規定セサル所以ハ一ニ指揮官タル者其智力ヲ以テ時機ニ適スル如ク之ヲ活用スヘシト云フニ在リ然レモ是レ素ト操典ノ應用ナルカ故ニ全ク操典ノ範圍外ニ於ケル運動ヲ用ユヘカラス故ニ中隊ノ應用演習ハ操典ニ記載セル諸運動(射撃ヲ除ク)ヲ以テ能ク各種ノ時機ニ適應シ得ヘキナリ之ニ反シ中隊ニ於テ尙運動ノ變形ヲ用ヒ以テ其應用ト爲スカ如キハ步兵操典總則第三所謂中隊ハ步兵固有ノ教練ヲ卒業スヘシ云々ノ趣旨ヲ誤ルモノト云ハサルヘカラス假令ハ中隊縱隊ノ側面行進中其行進方向ニ四列射撃ヲナサンカ爲メ第一



及ヒ第二小隊ヲ左へ並へ以テ四列射撃ヲナシ第三小隊ヲ其右翼ニ開進シテ共ニ射撃セシムルカ如キハ操典ニ記載スル運動(方向變換ノ後左側ノ敵ニ對シ四列射撃)ヲ以テスルコトヲ得且ツ之カ爲メ却テ困難ヲ避ケ其實行ニ多クノ時間ヲ要セサルヘシ

又タ操典中大隊ハ僅ニ基本ノ隊形及ヒ其運動ノミヲ示シ聯隊及ヒ旅團ニ至リテハ絶テ密集運動ノ變換ヲ示サス其應用ニ於テハ號令或ハ命令ヲ以テ各種ノ運動ヲ爲スヲ要ス然レ密集運動ニ於ケル大隊ノ應用演習ハ中隊教練ノ活用ニシテ聯隊及ヒ旅團ハ大隊教練ノ活用ニ外ナラス故ニ大隊ハ聯隊及ヒ旅團ニ於ケル運動ノ基礎ヲ

ナス(操典第一部第二百十一)又タ大隊若シ操典中ノ諸運動ヲ以テ強テ各種ノ時機ニ應セントスルハ之カ爲メ多數ノ時間ヲ要シ時ニ或ハ爲シ得ヘカラサルコトナリ

第五十五 上ノ主旨ニ依リ運動ヲ活用スレハ又之ニ應スル號令詞ヲ要スヘシ是レ操典總則第八及ヒ要務令第三ニ於テ許ス所ナリ故ニ操典ニ掲タル運動ヲ行フニ當リ操典外ノ號令詞ヲ用ユルハ嚴禁スル所ナレハ應用演習ヲ行フニ當リ臨時ニ操典外ノ號令詞ヲ設ケテ之ヲ指揮スルコト素ヨリ隨意ナルヘシ

第五十六 號令ハ部隊ノ大小ト時機ノ如何ヲ問ハス常ニ活音ニシテ明瞭ニ發唱スヘシ(操典總則第七)動モスレ



ハ行軍其他野外演習等ニ際シ其之ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テモ時ニ或ハ練兵場ニ於テスル號令ヲ用ヒス單簡ナル預令或ハ命令ヲ用ユルノ弊ナキニアラス實ニ兵卒ハ號令ニ從テ一齊ニ動作スルコトハ練兵場ニ於テ已ニ業ニ修得シアルモ指揮官ノ號令嚴正ナラサレハ兵卒又々正シク之ニ從フコト能ハス遂ニ軍記ヲ壞亂スルニ至ルヘシ

**第五十七** 諸級ノ指揮官ノ位置操典ニ示ス所ナリト雖  
左ノ場合ヲ區別スルコト肝要ナリ  
第一 己レ教育者タリ監視者タルキハ教練間便宜ノ位地ニ在リ其部隊ノ前後左右ヲ巡視シテ此不正ヲ正スヲ要ス

其二 一指揮官上級指揮官ノ號令又々ハ査閲ノ許ニ在リ上官特ニ之ヲ命スルノ外ハ各々其定位置ニ在リテ姿勢及ヒ動作部下ノ標準タラサルヘカラス然ル各官部下教育ノ熱心ヨリ此二件ヲ混同シ己レ既ニ監視ノ許ニアリテ尙部下ノ周圍ヲ巡行シ矯正ノ聲喧シク或ハ上官ノ號令ヲ誤聞シ或ハ後レテ之ヲ聞キ爲メニ嚴格ナル號令ヲ下スノ餘地ナク運動ノ正格ヲ失フニ至ルコトアリ豈ニ慎マサルヘケンヤ

**第五十八** 中隊以上ノ教練ハ日々午前ニ施行スルヲ良トス是レ雜役其他勤務ノ爲メ出場人員ヲ減少セサルニ由ルナリ之カ爲メ雜役勤務ハ午後トシ其人員ヲ増シ且



ツ午後ハ小部ノ演習ノミニ充ツルヲ適當トス  
 日々午前ノ教練時間ハ中隊教練以上ニ在テハ豫メ之ヲ  
 定ムヘキモノニアラス唯日々教練中ニ於ケル兵卒ノ動  
 作如何ニアルヘキモノトス故ニ教練ノ結果宜シケレハ  
 短時間ヲ以テ充分トシ之ニ反スル片ハ其時間從ツテ長  
 キモノト知ルヘシ指揮官ハ部下兵卒ニ能ク此理由ヲ明  
 示シテ之ヲ獎勵シ熱心以テ教練ニ從事セシムルヲ緊要  
 トス

## 第二章 中隊教練

第五十九 第一期檢閲ヲ終ルヤ中隊長ハ新古兩兵ヲ合  
 シテ正シク中隊ヲ編成スルヲ以テ第一ノ事業トナス之

ヲ行フニハ全兵卒身幹ノ大小ヲ綿密ニ調査シ操典第一  
 部第六十六及ヒ第百四十五ニ從フテ二列ニ編成ス此ノ  
 如ク中隊ハ右翼ヨリ左翼ニ至ルニ從ヒ漸次身幹ノ順序  
 ニ排列シ且ツ各伍中其大ナルモノヲ第一列ニ置クヘシ  
 ト雖モ又タ些少ノ變更ハ之ヲ爲シ得ヘキモノトス故ニ  
 第一列ノ爲メニハ姿勢動作共ニ熟練ノ兵卒ヲ以テシ不  
 熟ノ者ハ第二列ニ編成スルヲ良トス然モ其第二列中ニ  
 於テハ勉メテ不熟ノ兵ヲ同一所ニ排列スルヲナキニ注  
 意スヘシ又タ小隊及ヒ分隊分界點ノ傍ラニ在ル伍ハ  
 例ナル兵卒ヲ以テスヘキナリ  
 同中隊中ニ於テ著シク身幹大小ノ差ヲ生セシメサルハ



聯隊副官其責メニ任スヘキモノトス  
 次ニ中隊ハ操典第一部第四百十五ニ從ヒ之ヲ小隊及ヒ  
 分隊ニ區分シ分隊ハ其小隊中ニ於テ番號ヲ附スヘシ  
 屯營ノ結構之ヲ爲シ得ルキハ各小隊若クハ各半小隊ノ  
 前後兩列ヲ區分シテ給養班トナスヲ便利トス而シテ勤  
 務職工及ヒ從卒ハ勉メテ各給養班ヨリ平等ニ課スヘキ  
 ナリ

第六十 衛兵其他諸勤務ノ爲メ教練時間ヲ減スルヲ多  
 シ大ナル衛戍地ニ在テハ殊ニ然リトス故ニ中隊長ハ中  
 隊教練ヲナシ得ヘキ時日ハ最モ注意シテ適宜ニ其課目  
 ヲ配當ス然レ此時日ハ全ク此教練ニノミ使用スヘキモ

ノニアラスシテ又タ各個及小隊等ノ諸教練ニ利用スヘ  
 キモノナリ

此諸種ノ教練ハ常ニ交互ニ之ヲ行ヒ以テ第一期間ニ於  
 ケル教練ヲシテ益々熟達セシムルヲ要ス而シテ此期ニ  
 於ケル中隊教練ハ其始メヨリ中隊長必ス指揮號令スヘ  
 シ是レ新右兩兵ヲシテ新編成及ヒ中隊長ノ指揮號令ニ  
 慣レシムルヲ肝要ナレハナリ

各個及ヒ小隊教練ハ將校及ヒ下士ノ擔任スル所ニシテ  
 中隊長ハ殊ニ其教育ノ齊一ナルニ配意ス又タ中隊教練  
 ヲ爲シ得ヘキ時ハ此諸教練ノ終リニ於テ霎時ト雖モ必  
 ス中隊ヲ編成シ一二ノ運動ヲ爲シテ其齊一ヲ計ルヘシ



銃劍術ハ此期ニ於テ始メテ新兵ニ教ユヘシト雖モ未タ之ヲ以テ尙ホ主眼ナル課目トナスコ勿レ是レ中隊檢閲ノ際器械體操及ヒ銃劍術ヲ檢閲スルハ尙ホ早ケレハナリ然モ此兩課目ハ全ク除去スヘキニアラス

若シ屯營ノ内庭狹クシテ中隊教練ヲナシ能ハス且ツ練兵場ニ至ルノ距離稍遠キハ練兵場ニ於ケル教練ハ全ク中隊教練ニ充テ其他小部ノ教練ヲ營内ニ於テセシムル如クスヘシ但シ此ノ如キ練兵場ハ其往復ヲ利用シテ行軍ノ軍紀及ヒ警戒法ヲ教ユヘシ

第六十一 中隊教練ヲ始ムルニ先タチテ教育班ヲ分ツヲ要ス而シテ此班位ノ黜陟ハ屢々之ヲ爲シ以テ兵卒ヲ

獎勵シ或ハ教誨スヘキナリ若シ其黜陟慎重ニシテ容易ニ之ヲナサルハ兵卒戒慎ノ注意ヲ提起セス終ニ怠慢ニ陥ルヘシ

第六十二 以下將ニ此期ニ於ケル教練ノ方法ヲ述ヘントス而テ此期ノ教育ハ之ヲ七週ニ分ツコチ得ヘシ

服裝 中隊教練ニ出場スル將校以下ノ服裝ハ常ニ一樣ナルヲ要ス列中絨衣袴及ヒ小倉衣袴ヲ混用スルハハ實ニ其外貌ノ美ヲ損スルノミナラス整頓ニ感及スル極メテ大ナルモノトス

最初ノ教練ニ在テ背囊ハ其屬品ヲ除クヘシト雖モ漸次ニ其入組品ヲ附加シ遂ニ戰時定量ノ重トナスヘキナリ



野外演習ノ際ハ殊ニ然リトス  
 中隊檢閲ニ於テ着用セシムヘキ被服ノ種類ヲ豫メ知リ  
 得ル片ハ其檢閲若干日前ニ於テ之ヲ着用セシメ以テ演  
 習スルヲ緊要トス  
 集合場ノ集合 指定時限前十五分ニ於テ各給養班ハ中  
 隊ノ集合場ニ至リ下士ハ其班兵卒ノ身體、服裝及ヒ武器  
 ヲ點檢シ其趣キヲ特務曹長ニ報告ス是ニ於テ特務曹長  
 ハ各給養班ヲ合シテ戰術上ノ編成ヲナシ次ニ精密ニ整  
 頓セシメタル後番號ヲ附シテ小隊及ヒ分隊ヲ區別ス但  
 シ此分界點ヲ兵卒ニ知ラシメ及ヒ之ヲ此點ノ側ラニ在  
 ル兵卒ニ記憶セシメンカ爲メ此諸兵ヲシテ右(左)向ヲ爲

サシムルヲ良トス若シ此分界點ニ不熟ノ兵位置シアル  
 片ハ第五十九ノ方法ニ從フヘシ  
 爾後現場ニ在ル一將校ハ各列開列ニアル中隊ヲ検査シ  
 タル後若シ時間ニ有餘アレハ姿勢、銃ノ操法若クハ射撃  
 預行演習ヲ施行セシム  
 正時ニ至リ中隊長此ニ來レハ古參ノ將校ハ其演習ヲ止  
 メシメ列ヲ閉チ「頭右(左)ヲ令シツ、出テ中隊長ヲ迎ヘ當  
 日出場シアル下士以下ノ人員ヲ報告ス此時他ノ將校ハ  
 中隊ノ右翼、下士ハ悉ク押伍列中ニ在テ敬禮ス  
 次ニ中隊長ハ隊前ヲ通過シ將校及ヒ下士ヲ各小隊ニ配  
 賦シ且ツ演習ノ命令ヲ下スヲ要ス



又夕演習ヲ終リ集合場ニ皈リ來レハ曹長ハ中隊長ノ命ニ由リ達スヘキ命令及ヒ處置(處罰及ヒ教示ハ中隊長自ラ之ヲナス)ヲナシ諸兵卒ヲ給養班ニ皈ラシム次ニ給養班長ハ武器被服ノ破損紛失ヲ調査シテ其有無ヲ曹長ニ届ケ然ル後中隊長ノ面前ヲ通行(分列)シテ皈營スヘキナリ

第一週

一 基本教練 閱兵小隊毎ニ行フ  
行進ハ左ノ諸演習ヲナスモノトス

一、頭右ヲ以テスル各個及ヒ伍ノ行進 行進間ノ轉回 斜行進 駢歩

二、分隊正面及ヒ側面行進 伍及ヒ部隊正面ノ方向 變換 行進間ノ轉回 斜行進 側面行進ヨリ横隊ニ開進

此行進ノ目的ハ新古兩兵間ニ生スル差異ヲ除去シ勉メテ其均一ヲ圖ルニ在リ之カ爲メ特ニ注意スヘキハ足尖及ヒ膝ノ高サ及ヒ左手ノ動搖ナリ蓋シ新古兩兵共ニ第一期間精密ノ注意ヲ以テ教育スルモ其差異ハ實際免レサルモノトス又夕行進不熟ノ兵卒ハ適當ノ下士ヲシテ特別ニ之カ教授ヲ掌ラシメ要スル片ハ銃ヲ携ヘシメサルヲ良トス  
行進間銃ハ操典ニ記載セル如ク正シク之ヲ擔ヒ右肘



ハ輕ク體ニ着ケ床尾踵ヲ僅カニ内方ニ傾クル如ク心ヲ用ユヘシ是レ此弊害ハ行進間殊ニ駈歩ニ於テ多ク生スル所ナレハナリ

此行進演習ハ勉メテ長遠ノ距離ニ於テシ以テ步度ノ齊一ト長時間ノ行進ニ堪ユルヲ得セシムヘシ

一 銃ノ操法、裝填、充填及ヒ射擊 此諸演習ハ各個伍或ハ三名毎ニ之ヲ行ヒ且ツ各伍或ハ各列相對向セシムルヲ最モ便利トス  
射擊ハ其種類ニ從ツテ緩急アルモ裝填ハ毎子ニ神速ナルヲ要スルノ趣旨ヲ兵卒ニ了解セシムルヲ必要ナリ

一 轉回 半小隊各列或ハ半小隊毎ニ行フ此時右ノ手頸ハ輕ク右股ニ接シ之ニ由テ銃ノ外方ニ向カサルヲ及ヒ動搖セサルヲニ注意スヘシ

一 整頓ハ基礎兵或ハ標兵ニ準シテ小隊ヲ以テ行ヒ而シテ一翼ノ整頓ニ於テ要スル片ハ一伍、二伍、五伍或ハ六伍毎ニ整頓線ニ入ラシムヘシ

一 戰鬪演習 此演習ハ伍、分隊及ヒ小隊ヲ以テ練兵場及ヒ野外ニ於テス

各將校ハ中隊長ノ命令ニ從ヒ各其小隊ノ演習ヲ指揮シ及ヒ其教育ニ就テハ各分隊長其責ニ任スヘキモノナリ



平坦地(練兵場)ニ於ケル散開戰闘

一、前方或ハ其位置ニ於ケル散開、某方向ニ於ケル散開及ヒ退却セル部隊ノ散開

各散兵ハ互ニ一步乃至二步ノ間隔ヲ有シ若シ某二兵間隔大ニ過クルハ小隊長之ヲ修正スヘキモノトス

行進シアル散兵ヲシテ伏姿、膝姿及立姿ヲ以テ停止セシメントスルハ小隊長ハ其號令ト共ニ劍ヲ以テ其位置ヲ示スヘシ然レモ將校ハ其他ノ場合假令ハ整頓ノ際之ヲ以テ兵卒ノ出入ヲ指示スルハ嚴禁スルヲ要ス

二、散兵線ノ運動ハ 前進及ヒ退却 斜行進 行進 方向ノ變換 躍進

行進間各散兵ハ整頓及間隔ヲ墨守スルヲ要セス(操典第一部第百二十六)野外ニ在テハ殊ニ然リトス唯其確守スヘキハ散兵前後ニ行進シ射撃ヲ妨害スルヲナキニ在リ

躍進ハ分隊ニ在テハ伍、小隊ニ在テハ分隊毎ニ行フヲ良トス平地ニ在テ他ニ據ルヘキ地物ナキハ躍進後ノ停止ハ伏姿ヲ以テスヘシ(操典第一部第六十一及ヒ第二部第四十)

前進ニ在テハ小隊長及ヒ分隊長ハ散兵線ヲ超ヘテ



前進シ部下ノ基準トナリ且ツ其方向ヲ誤ラサルヲ要ス然ルルハ教育監視ノ爲メ一名ノ下士ヲシテ散兵線ノ後ニ從ハシム

三、射撃 古兵ハ已ニ各種ノ射撃ヲナシ新兵モ亦タ已ニ第一期ニ於テ二百米突以下ノ射撃規則ヲ知ルヲ以テ此演習ハ復習ニ外ナラス然ル其目的ハ新古兩兵ノ齊一ヲ慮ルニ在リテ專ラ分隊ヲ以テ之ヲ施行シ熟練ノ下士ヲシテ之ヲ擔任セシムルヲ適當トス然ルルハ標的若クハ古兵ヲ前方ニ差遣シテ敵兵ヲ假設スヘシ而シテ練兵場ニ於テ絶ヘス之ヲ教習シ兵卒確實ニ動作シ得ルルハ地形ニ於ケル其應用

敢テ難キニアラサルヘシ

伏姿ノ射撃姿勢及ヒ伏姿ヨリ膝姿ニ移ル

膝姿ノ射撃姿勢及ヒ膝姿ヨリ伏姿ニ移ル

射撃ノ開始及ヒ「打方待テ」ノ姿勢但シ此演習ハ敵兵ノ動作ニ從ハシムルモノトス

膝姿及ヒ伏姿ニ於ケル裝填但シ擬製彈藥或ハ空包ヲ用ユヘシ

立姿射撃但シ伏姿或ハ膝姿ヨリシ及ヒ之ニ反スル諸動作

照尺ノ改装及ヒ混用照尺ノ用法

兵卒ハ此演習ト同時ニ六百米突ニ至ルマテハ單一



照尺ヲ以テ射撃シ得ヘク此ヨリ以上ニ在テハ混用  
 照尺ヲ用ユヘキノ規則ヲ知ルヲ要ス  
 距離目測 新兵ハ已ニ第一期ニ於テ三百米突ニ至  
 ル距離ヲ目測セシムヘキナリ之カ爲メ二百米突以  
 上ノ距離ニ在テハ其中間點ヲ求メテ之ヲ目測スル  
 一ニ慣レシメ又タ六百米突以上ニ在テハ物體ノ大  
 小ニ從テ測定セシムルヲ良トス  
 射撃ノ種類 散兵射撃ニシテ其種類緩徐ナルキハ  
 射撃セサル兵ハ他兵ノ彈着ヲ報告シ並及ヒ急射撃  
 ニ於テハ之ヲ要セス而シテ一齊射撃ハ密集部隊或  
 ハ散兵線ヲ以テス

通常射撃ノ種類ハ敵ノ遠近ニ從フヲ法トスト雖モ  
 敵ノ砲兵ニ對シテハ遠距離ニ於テモ稀ニ急射撃ヲ  
 行フコトアリ然モ彈藥ノ浪費モ亦タ顧慮セサルヘカ  
 ラス

一 中隊密集運動 停止間ニ於テ橫隊ヨリ中隊縱隊  
 ニ移ル中隊縱隊ヲ作ルルハ各小隊間ノ距離其整頓  
 次ニ前後ノ重疊ニ注意スルヲ以テ順序トス  
 中隊縱隊ヨリ橫隊ニ移ル即チ 先頭小隊ノ右左ニ  
 開ク 先頭小隊ノ左(右)ニ開ク 某方向ニ開ク 某  
 方向ニシテ左(右)ニ開ク  
 中隊縱隊ノ行進 此行進ハ勉メテ長距離ニ於テシ



且ツ其最モ習熟スヘキハ斜行進及ヒ方向變換ナ  
リ

此週ニ於テ未タ横隊ノ整頓、行進及ヒ銃ノ操法ヲ教ヘサ  
ル所以ハ其動作他ノ者ニ比スレハ頗ル困難ニシテ且ツ  
多クノ時間ヲ要スルカ故ナリ

一、射撃預行演習 已ニ述ヘシ如ク兵卒此週ニ於テ射  
撃スヘキ片ハ殊ニ其預行ヲ怠ルヘカラス其他高照尺  
ニ於ケル各種姿勢ノ射撃ヲ教ユヘシ

一、器械体操 其等級ニ從ヒ適當ニ器械ヲ配當スルヲ  
要ス

一、銃劍術 古兵ニシテ既ニ第一期ニ於テ充分ニ基本

演習ヲ行ヒタル片ハ試合ヲ始メシメ又タ新兵ハ唯其  
基本演習ヲ始ムルモノトス

新兵ノ基本演習ハ教官タル下士又ハ上等兵各個ニ之  
ヲ教ヘ其間他ノ新兵ハ相對スル二名毎ニ復習ヲナス  
ヲ要ス但シ教育部隊ヲ二分シ四步乃至五步ヲ隔テ、  
相對セシメ各兵ヲ二步ノ間隔ニ配置スルヲ良トス  
銃劍術ハ器械体操若クハ柔軟体操ト併セ行ノヲ良ト  
ス其道具ノ數少ナキ片ハ殊ニ然リトス

一、口授 將校ハ射撃教範第一編(彈道一般ノ形狀、照準、  
彈道ノ構成及ヒ外物ノ交感)及ヒ衛兵ニ於ケル步哨ノ  
權限ヲ教ヘ下士ハ衛兵ノ步哨ト前哨步哨ノ區別其聯



隊風紀衛兵ノ守則、衛兵ノ敬禮及武器ノ名稱及手入法

第一週

一 基本教練 閱兵前ニ同シ

行進 伍ノ速歩及ヒ駈歩(速歩ハ步調ヲ取リ或ハ步調ヲ止メ)ニシテ執銃及ヒ徒手)及ヒ分隊ノ行進

小隊ニ於テスル諸運動(操典第一部第七十九乃至第一百十三)

一 銃ノ操法裝填充填及ヒ射擊 分隊又ハ小隊ノ各列或ハ二列ニ編成セル小隊ニ於テス 密集部隊ノ操法ニシテ立銃ニ在テハ床尾嘴捧銃ニ在テハ左手及ヒ床尾嘴、擔銃ニ在テハ床尾踵及ヒ擊鐵頭

及ヒ裝填及ヒ射擊姿勢ニ在テハ銃口常ニ一線上ニア  
ルヲ要ス

一 整頓 前週ニ同シ

押伍ノ整頓ハ先ツ前後ノ重疊次ニ距離終リニ左右ノ整頓ヲ需ムヘキナリ

一 戰鬥演習 散開其他各演習ハ前週ノモノヲ繼續シ漸次其度ヲ進ムルニ在リ但シ未タ中隊ヲ以テスルニ至ラス

一 中隊密集運動 横隊側面行進 但シ最モ屢々且ツ正シク之ヲ行ハシムルヲ要ス又タ初メハ長距離ヲ行進セシムヘカラス